

地域防災力向上マニュアル

平成 30 年 2 月

堺 市

目 次

1	はじめに	1
2	地域防災力向上マニュアルとは	2
2-1	まず「地域防災力」とは何か	2
2-2	地域防災力向上マニュアルの目的	3
2-3	活動の進め方とマニュアルの活用方法	4
①	校区の活動目標を立てる	5
②	活動状況を確認する	6
③	校区に必要な取組を検討する	7
④	活動計画を作る	7
⑤	活動する	9
⑥	活動を振り返る	10
⑦	次年度活動計画を作る	10
⑧	地区防災計画ひな形（校区カルテ）等へ反映する	11
⑨	地区防災計画	11

様 式 集

様式 1	校区活動目標シート	様-1
様式 2	地域防災力向上 取組チェックシート	様-2
様式 3	3ヶ年程度 of 取組表・年間活動計画表	様-3
様式 4	まち歩きチェックリスト	様-4
様式 5	防災マップ作成様式	様-5
様式 6	学校施設歩きチェックリスト	様-6
様式 7	アンケート様式（例）	様-8

取組メニュー事例集

1 はじめに

近年、全国各地で自然災害により大きな被害に見舞われ、堺市でも異常気象による風水害をはじめ、発生確率が高い南海トラフ巨大地震や本市直下の上町断層帯地震の発生が危惧されており、防災への関心が高まっています。

特に1995年の阪神淡路大震災と2011年の東日本大震災という二つの大震災から、災害発生直後の「行政対応（公助）の限界」と「地域コミュニティにおける相互の助け合い（共助）」の重要性が認識されました。

国においては、共助による防災活動を促進し地域の防災力向上を図るため、2013年6月に災害対策基本法を改正し、「地区防災計画制度」等が創設されました。

堺市では、阪神淡路大震災発生後、1998年度から堺市自治連合協議会に参加する校区自治連合会を対象に、「自主防災組織」の結成と活動を促進する制度を構築し、地域による防災活動を推進してきたところです。

2015年度からは、10校区の自主防災組織にご協力いただき、自主的な避難所運営体制の検討をはじめ、校区の防災の取組をまとめた「校区カルテ」の作成を進めてまいりました。

この取組から得られたことを整理し、「いかに地域防災力を向上させるのか」について、各校区の活動段階に応じた取組事例の紹介、地区防災計画策定に向けた計画的な取組につなげる「取組チェックシート」など、分かりやすくマニュアルにまとめました。

各校区自主防災組織のリーダーや防災役員の皆様には本マニュアルを、日頃の防災活動の更なる推進の一助として役立てていただきますとともに、今後とも、自助・共助・公助連携のもと、引き続き、本市防災行政にご協力、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

2 地域防災力向上マニュアルとは

2-1 まず「地域防災力」とは何か

 「地域防災力」とは、地域の様々な担い手が
連携・協働して減災に取り組むコミュニティの力



「公助の限界」と「地域防災力」の重要性

東日本大震災等では、行政自身が被災して機能が麻痺する場合があります。大規模広域災害による被害を少なくするため、また、復興をうまく進めるためには、地域住民一人ひとりや地域コミュニティが、主体的に関わるのが重要になります。

「地域防災力」を向上させるためには

- ①各地域の防災活動の担い手である住民、地域の団体や企業が、目標や課題を共有し連携、協働して防災活動を行うことが必要です。
- ②各地域が、その実践のため、指針となる防災計画を作成することが重要です。

地域防災力向上マニュアルの活用

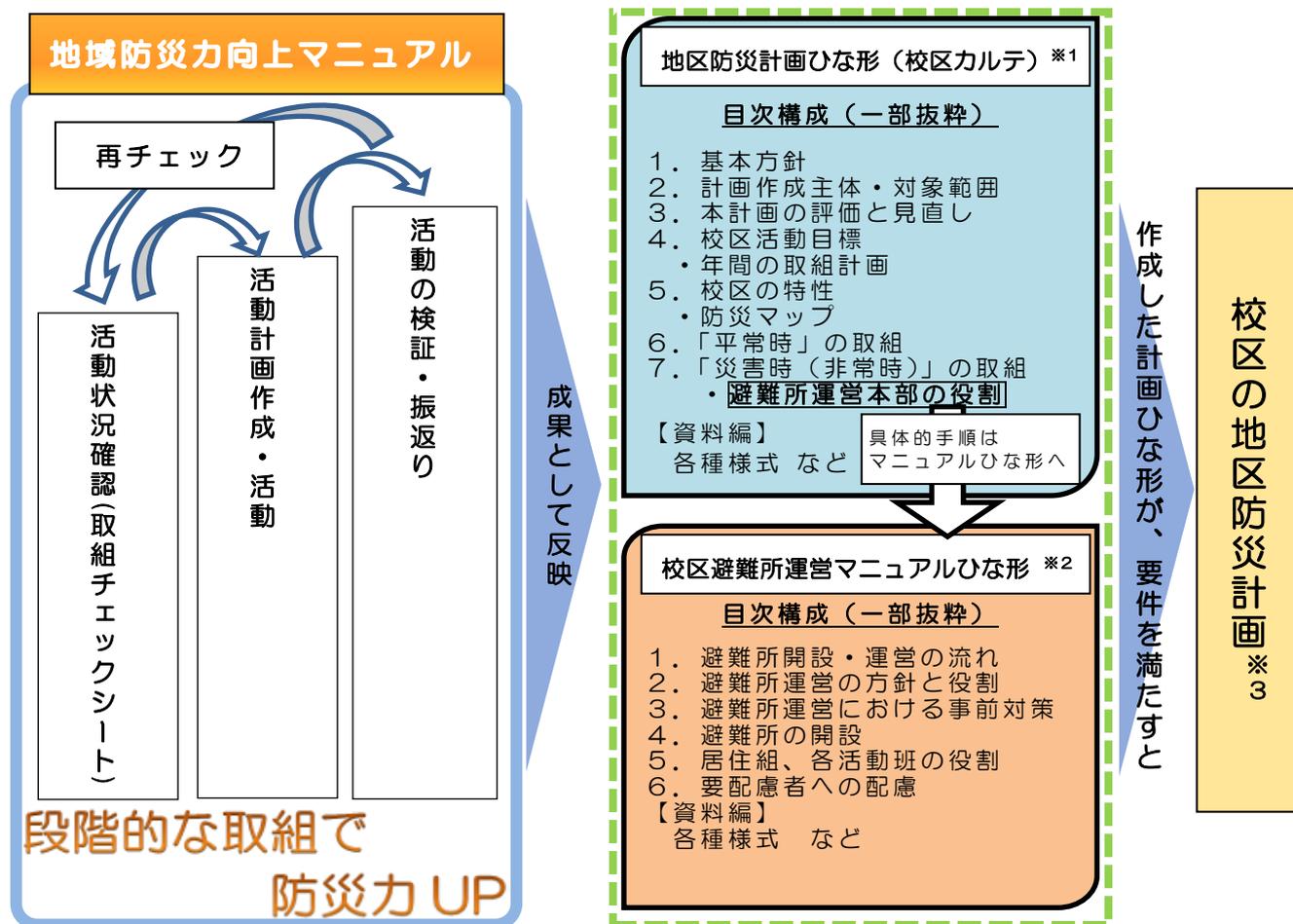
このマニュアルにより

- ①地域防災の中心的担い手である校区自主防災組織の実情に応じて、目標設定や課題の洗い出しにつなげ、さらに、地域内関係機関との連携、協働の取組を推進できます。
- ②取り組んだ成果は、地区防災計画ひな形（校区カルテ）等に反映・作成することで、地区防災計画の策定につながります。

2-2 地域防災力向上マニュアルの目的

このマニュアルは、各校区の実情に応じた取組事例や取組チェックシート（様式2）を活用することで、各校区での取組の促進、継続による更なる防災力向上につなげることを目的としています。

また、取り組んだ成果は「地区防災計画ひな形（校区カルテ）（※1）」や「校区避難所運営マニュアルひな形（※2）」等に反映していくことで、「地区防災計画（※3）」策定にもつながります。



※1 「地区防災計画ひな形（校区カルテ）」とは、防災の視点から見た校区の現状や今後の取組目標、及び自主防災組織体制、校区内の防災設備・資源、連絡先等の情報を整理したものです。

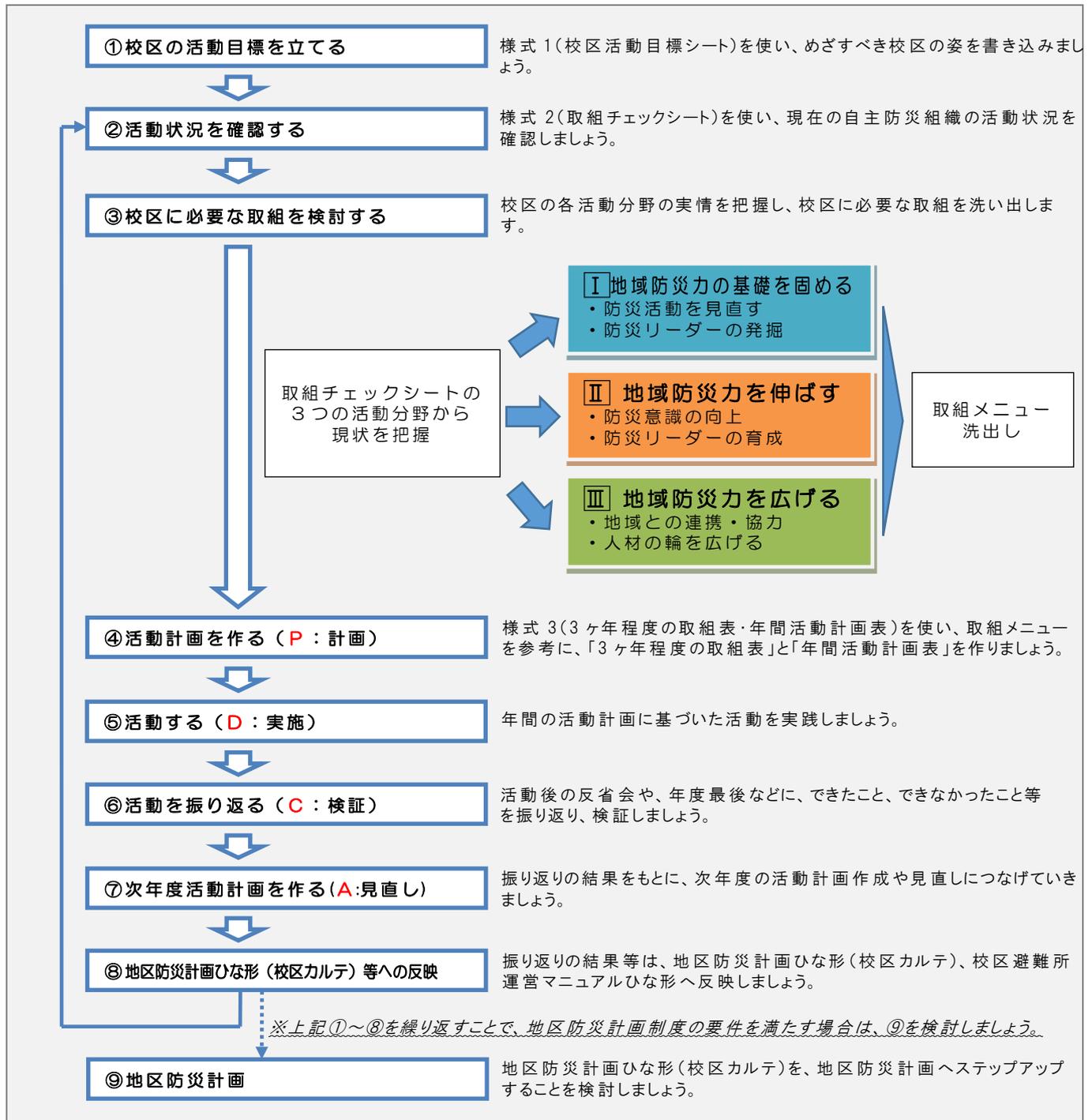
※2 「校区避難所運営マニュアル」とは、地震発災後の避難所開設・運営について、時系列で整理した行動手順や運営体制、留意点等を整理したものです。

※3 地区防災計画制度とは、2013年の災害対策基本法改正において、市内の一定の地区居住者等が行う自発的な防災活動に関する制度として、新たに創設されたものです。校区自主防災組織が自発的に実施する防災・減災に向けた取組で組織、役割分担、平時及び災害時の活動内容等を定めた計画です。

2-3 活動の進め方とマニュアルの活用方法

防災活動を進めていくためには、各校区がめざすべき姿を「校区活動目標」として設定することが重要です。この目標に向けて、まず何から取り組むべきかについて話し合い、計画的に防災活動を継続することが効果的な防災力の向上につながります。

マニュアルによる活動の取組は、次の9つの段階（①校区活動目標を立てる～⑨地区防災計画）で構成されています。各校区の実情に応じて、実践していきましょう。



①校区の活動目標を立てる

1) めざすべき校区の姿

誰もが自発的に防災活動ができるようにするためには、めざすべき校区の姿と、何をめざす取組なのかを明らかにする必要があります。

自主防災組織内の話し合いを行って、様式1（校区活動目標シート）を使い、めざすべき校区の姿を書き込みましょう。

めざすべき校区の姿としては、取組の考え方やキャッチフレーズ、取組テーマなど、目標が端的に表される言葉がいいでしょう。

例えば、以下のような取組が考えられます。

- ・ 住民全員の防災意識の向上
- ・ 自主防災組織が機能することをめざす
- ・ 共助体制の確立をめざす 等

様式1

校区活動目標シート	
(1)めざすべき校区の姿	1) 結果を記載
(2)校区の課題	2) 結果を記載
(3)年間の取組計画	3) 結果を記載

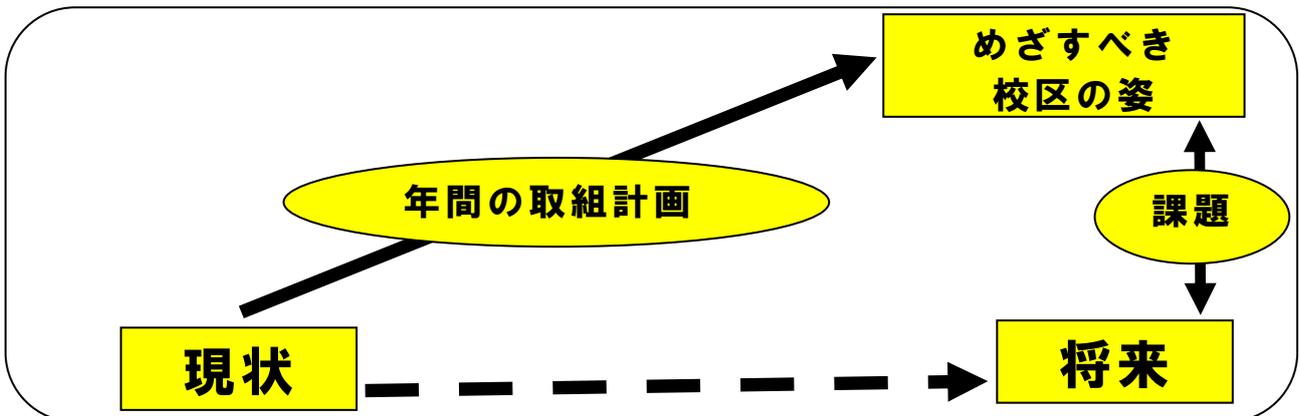
様式3（3ヶ年程度の取組表・年間活動計画表）参照

～参考：めざすべき校区の姿と課題、取組計画に関して～

2) 校区の課題

めざすべき校区の姿の達成に向けて、現状との差を埋める必要があります。この差が、解決しなければならない「校区の課題」です。

「校区の課題」としては、例えば、各单位自治会の防災への取組の格差を縮める、自主防災隊の活性化、防災士の増員、防災組織としての意識の統一、防災訓練への参加率の向上などが考えられます。



3) 年間の取組計画

校区の課題を解決するために、年間の取組計画を作ります。詳細については、様式3（3ヶ年程度の取組表・年間活動計画表）と連動しながら書き込みます。

②活動状況を確認する

防災活動の中で、できているつものものや、やるべきことを見過ごしていることもあります。このようなことがないように、現在の活動状況を役員同士などで確認し合いながら、防災活動を継続することが重要です。

様式2（取組チェックシート）を使い、自分たちの組織ができている取組、できていない取組を把握し、現状を確認してみましょう。

「地域防災力向上取組チェックシート」での診断は、いつ実施すればよいですか？

主に、①活動計画を考える前、②各活動の最後（次年度活動計画を考える前）です。それぞれの結果を比較してみましょう。

誰がチェックするのですか？

自主防災組織の主要役員（数名）が集まり、自分たちの組織や活動状況についてチェックしましょう。

「はい」「いいえ」は、どんな判断をすればよいですか？

「はい」：取組が十分にできている

「いいえ」：まだやっていない取組（または、取組が十分ではない）

※ チェックの結果、例えば「役員が災害時に率先して対応することは自覚しているが、行政からの防災情報は理解していない」、「地域の様々な団体との協力体制はあるが、日頃の交流がない」など様々なケースが考えられます。チェックの結果はあくまで目安です。「できていない取組」については計画的に取り組んでいきましょう。

チェック結果は、どう使ったらよいですか？

「できている取組」は、その継続に努めましょう。「できていない取組」は、必要に応じて見直ししながら、できるところから継続的に実施しましょう。

様式2

地域防災力向上 取組チェックシート

取組が十分にできているか等

区分	視点	No	設問	回答 (どちらかに ○印)	取組メニュー(例示)	チャレンジ レベル (☆多:難)
1	意思決定	1	災害時の共助活動の重要性を理解し、自主防災組織が共助の中心として活動できるように話し合っていますか？	はい いいえ	取組メニュー-3-① 防災について話し合う機会を設ける(事-27 ㊦)	☆
		2	防災活動に関する取組目標や防災活動計画を作っていますか？	はい いいえ	2-3 活動の進め方とマニュアルの活用方法(4 ㊦)	☆
2	ルール検討 ・役割分担	1	災害時に活動を指揮できる人が一定数おり、ルール・役割に関して話し合っていますか？	はい いいえ	取組メニュー-3-① 防災について話し合う機会を設ける(事-27 ㊦)	☆
		2	地域の災害時における安否確認方法を決めていますか？	はい いいえ	取組メニュー-4-③ 要支援者の安否確認方法を考える(事-38 ㊦)	☆☆
1	防災資源 管理・情報 発信	1	地域内被害想定危険箇所や防災資源を踏まえた防災マップを作っていますか？	はい いいえ	取組メニュー-1-① まち歩きを行う(事-2 ㊦) 取組メニュー-4-① 防災マップを作る(事-32 ㊦)	☆☆
		2	地域内の防災活動等について定期的に情報提供するためのチラシを作っていますか？	はい いいえ	取組メニュー-2-① 啓発・周知のためのチラシを作る(事-11 ㊦)	☆☆

③校区に必要な取組を検討する

様式2（取組チェックシート）の結果をもとに、活動分野を把握しましょう。

活動分野は、Ⅰ地域防災力の基礎を固める、Ⅱ地域防災力を伸ばす、Ⅲ地域防災力を広げるの3つに分けることができます。活動分野の具体的な実情把握には、様式2（取組チェックシート）の結果（「はい」・「いいえ」）をもとに、「できている取組」と、「できていない取組」を見比べながら、どの分野から優先的に取り組むべきかについて検討します。

各校区の実情に応じて、自分たちがどの現状にあるのか、次にどの分野の活動を進めていくのかなどを検討しましょう。

様式2

地域防災力向上 取組チェックシート

区分	視点	No	設問	回答 (どちらかに ○印)		取組メニュー(例示)	チャレンジ レベル (☆多・難)
1	意思決定	1	災害時の共助活動の重要性を理解し、自主防災組織が共助の中心として活動できるよう話し合っていますか？	はい	いいえ	取組メニュー3-① 防災について話し合う機会を設ける(事-27 頁)	☆
		2	防災活動に関する取組目標や防災活動計画を作っていますか？	はい	いいえ	2-3 活動の進め方とマニュアルの活用方法(4 頁)	☆
2	ルール検討 ・役割分担	1	災害時に活動を指揮できる人が一定数おり、ルール・役割に関して話し合っていますか？	はい	いいえ	取組メニュー3-① 防災について話し合う機会を設ける(事-27 頁)	☆
		2	地域の災害時における安否確認方法を決めていますか？	はい	いいえ	取組メニュー4-③ 要支援者の安否確認方法を考える(事-38 頁)	☆☆
1	防災資源 管理・情報 発信	1	地域内被害想定危険箇所や防災資源を踏まえた防災マップを作っていますか？	はい	いいえ	取組メニュー1-① まち歩きを行う(事-2 頁) 取組メニュー4-① 防災マップを作る(事-32 頁)	☆☆
		2	地域内の防災活動等について定期的に情報提供するためのチラシを作っていますか？	はい	いいえ	取組メニュー2-① 啓発・周知のためのチラシを作る(事-11 頁)	☆☆

取組の検討にあたっては、様式2（取組チェックシート）の右欄「チャレンジレベル」の☆印の数を参考に（☆印が多いほど難易度が高い）、取組の難易度を踏まえながら検討しましょう。

具体的な取組メニューは、巻末の「取組メニュー事例集」を参考にしてください。

④活動計画を作る

次に、活動計画を立てます。活動計画の作成に先立って、マニュアル5ページの①「校区の活動目標を立てる」で立てた「校区活動目標」と、様式2（取組チェックシート）で検討した取組メニューをもとに、様式3（3ヶ年程度の取組表、年間活動計画表）を使い、取組メニューに対する活動テーマや実施時期などの検討を行いましょう。検討した結果をもとに、年間の活動計画を作りましょう。

ステップ1 取組チェックシートから洗い出した取組の計画を立てます。

- 3ヶ年程度を目安に、校区活動目標を達成するための活動テーマを決めます。例として次に、校区活動目標1つとそれに合わせた活動テーマを3つあげています。
 - 校区活動目標（例） 「地域に必要とされる自主防災組織への発展」
 - 活動テーマ（例） 防災知識の向上、組織体制の強化、地域への啓発
- 前記3つの活動テーマをもとに、「3ヶ年程度の取組表」を作りましょう。次に作成例を挙げています。

■「3ヶ年程度の取組表」(例)

活動テーマ	取組内容	実施頻度	1年目	2年目	3年目
防災知識の向上	勉強会の実施	年2回の役員会議に合わせる	○	○	○
	防災マップの作成	年1回	○	○	○
組織体制の強化	リーダーの育成	通年	→		
	アンケート (ニーズ把握)	年1回	○	○	○
地域への啓発	地域行事と連携した防災活動の実施	年2回の地域行事に合わせる	○	○	○
	防災訓練の実施	年1回	○	○	○

ステップ2 1年間の活動を計画します

- 「3ヶ年程度の取組表」をもとに、1年間で実施する活動内容を決め、「年間活動計画表」を作ります。地域の行事予定も参考にしましょう。

■年間活動計画表(例)

- 「3ヶ年程度の取組表」をもとに、「年間活動計画表」を作りましょう。

活動内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 活動計画の作成	●											
2 防災知識の向上												
① 勉強会の実施		●								●		
② 防災マップの作成			●	→ まち歩き			●					
3 組織体制の強化												
① リーダーの育成	次年度から実施											
② アンケート (ニーズ把握)								●				
4 地域への啓発												
① 地域行事と連携した 防災活動の実施					●					●		
② 防災訓練の実施								●				
5 活動の検証												
① 活動の振り返り								●			●	
② 次年度計画の作成												●



- ◇ まずは、1年間の活動計画を作り、活動量を把握することが大切です。活動内容ごとに詳細な実施時期を検討しましょう。
- ◇ お祭りや運動会など、防災以外の地域行事の機会を活用し、防災意識の啓発活動を行うなど、工夫してみましょう。
- ◇ 無理なく、長期で活動しましょう。例として3ヶ年程度としましたが、役員任期などに合わせて計画することも有効です。

⑤活動する

年間活動計画に基づいた活動を実践しましょう。(以下、各校区取組事例など参照)
なお、様式集の様式4～6に、まち歩きに活用できる「様式4(まち歩きチェックリスト)」や、避難所となる学校施設の環境確認をする「様式6(学校施設歩きチェックリスト)」などを参考に添付しています。活動時に活用してみましょう。

平成27年度 避難所運営ワークショップ(登美丘西校区の例)【事-29 参照】



平成28年度 避難所開設・運営訓練(八上校区の例)【事-45 参照】



平成29年度 まち歩き(鳳校区の例)【事-2 参照】



活動までの基本的な流れ

1. 企画・立案
防災活動の主要メンバー内で実施内容、目的等の打合せ
2. 実施内容に関するお知らせと参加の呼びかけ
実施日時、内容、参加呼びかけなどを回覧、チラシなどによりお知らせ
3. 活動に関する準備
当日の流れの確認、準備物の手配など
4. 活動の実践

⑧地区防災計画ひな形（校区カルテ）等へ反映する

振り返りの結果等は、地区防災計画ひな形（校区カルテ）、校区避難所運営マニュアルひな形へ反映しましょう。主な反映ポイントは、以下の「活動分野と取組メニューの関係」（事-1 ㉔）のとおりです。

活動分野と取組メニューの関係（抜粋版）

分野	活動分野	活動テーマ	分類	活動の指標	活動評価の視点	取組チェックシートの視点	取組メニュー（事例集）	地区防災計画ひな形（校区カルテ）等への取組メニュー成果の反映例
1	地域防災力の基礎を固める	防災活動を見直す	組織	災害時の共助活動の中心であることを理解する。	自主防災活動の重要性の理解と継続体制の確立	意思決定	防災について話し合う機会を設ける	地区防災計画ひな形（校区カルテ） 目次 ・1 基本方針 ・3 本計画の評価と見直し ・4 校区活動目標 ・6 「平常時」の取組 ・7 「災害時（非常時）」の取組 ・7-1 各組織と役割 ・7-2 避難行動の流れと実施事項
			役員	自主防災活動の進め方を検討する。	自主防災組織の管理・監督	ルール検討・役割分担	活動計画を作る	
		防災リーダーの発掘	地域	自主防災活動の必要性を理解する。	地域内での人材発掘			防災について話し合う機会を設ける
			人材	防災に関心の高い人などを発掘する。		防災について話し合う機会を設ける		
2	地域防災力を伸ばす	防災意識の向上	組織	多くの人に参加してもらえるよう活動を工夫する	校区内の組織体制と役割・ルールに関する周知	防災資源の管理・情報発信	啓発・周知のためのチラシを作る	地区防災計画ひな形（校区カルテ） 目次 ・5-1② 施設・地域資源 ・5-1③ 防災マップ ・5-2 計画の対象とする災害 ・6 「平常時」の取組 ・7 「災害時（非常時）」の取組 ・7-1 各組織と役割 ・7-2 避難行動の流れと実施事項
			役員	災害時に迅速に活動できるような役割分担を決める	地域資源の把握		まち歩きを行う 防災マップを作る	
		防災意識の向上	地域	自助の知識を深め、各家庭の防災対策を充実させる	地域内啓発・活動による検証と振り返り	活動継続・意識啓発	地域行事に合わせて活動する	
			人材	防災リーダーを育成する	実践的な取組によるリーダーの育成		災害図上訓練（DIG）を行う 参加者に楽しみを提供する 自主防災組織が主体となった防災訓練を行う 安否確認訓練を行う 避難所開設訓練を行う 体験型の学習を行う 防災に関する意識調査を行う 防災講座や勉強会を開催する機会を設ける 「避難所運営ゲーム（HUG）」を行う ワークショップを行う	
3	地域防災力を広げる	・地域との連携・協力 ・人材の輪を広げる	組織	地域全体で活動する	地域内の防災以外の活動団体・組織との連携	地域内の関係機関との連携・協力	地域団体・組織と連携・協力する	地区防災計画ひな形（校区カルテ） 目次 ・5-1② 施設・地域資源 ・7-1 各組織と役割 ・7-2 避難行動の流れと実施事項 ・7-4 福祉避難所への搬送 ・資料編 10 防災関係機関連絡先一覧
			役員	先導役として様々な防災知識を身につける	校区内に存在する学校、企業等との連携の必要性を理解し、促進する		学校と連携・協力する	
			地域	共助を意識し、連携・協力する			医療・福祉機関、企業等と連携・協力する	
			人材	多様な防災主体とコミュニケーションを図る			学校と連携・協力する	

取組メニューの成果について「地区防災計画ひな形（校区カルテ）」等への反映箇所の例を記載しています。

⑨地区防災計画

前記の①～⑧を繰り返すことで、地区防災計画の要件を満たす場合は、地区防災計画へのステップアップを検討しましょう。

堺市の「地区防災計画制度」の要件では、「地域防災力向上マニュアル」の様式2（取組チェックシート）による取組状況などを確認することとしています。

また、策定に必要な事務手続きなどは、「堺市地区防災計画作成の手引き」をご参照ください。

様式集

校区活動目標シート

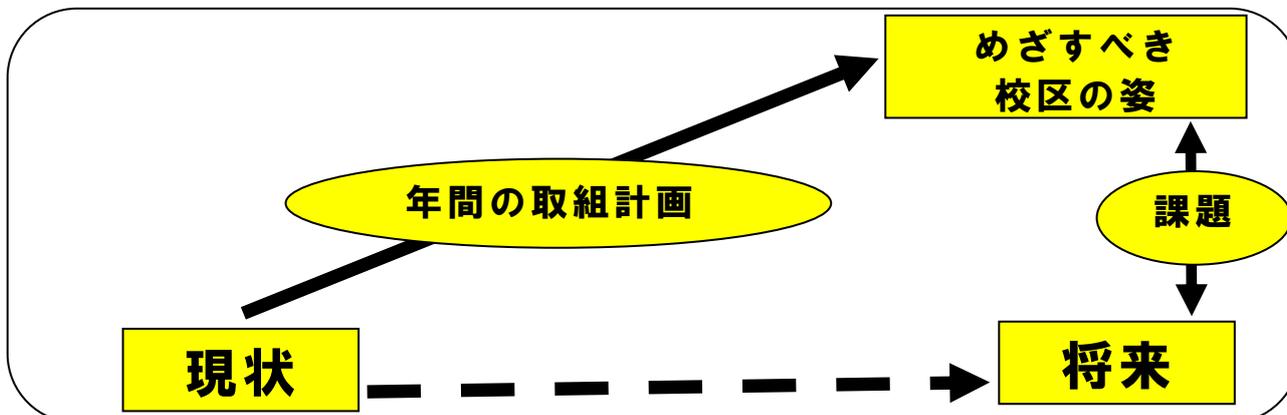
(1)めざすべき校区の姿

(2)校区の課題

(3)年間の取組計画

様式3（3ヶ年程度の取組表・年間活動計画表）参照

～参考：めざすべき校区の姿と課題、取組計画に関して～



地域防災力向上 取組チェックシート

分野	区分	視点	No	設問	回答 (どちらかに ○印)		取組メニュー(例示)	チャレンジ レベル (☆多・難)
I 基礎を固める	1	意思決定	1	災害時の共助活動の重要性を理解し、自主防災組織が共助の中心として活動できるように話し合っていますか？	はい	いいえ	取組メニュー3-① 防災について話し合う機会を設ける(事-27 ㄱ)	☆
			2	防災活動に関する取組目標や防災活動計画を作っていますか？	はい	いいえ	2-3 活動の進め方とマニュアルの活用方法(4 ㄱ)	☆
	2	ルール検討・役割分担	1	災害時に活動を指揮できる人が一定数おり、ルール・役割に関して話し合っていますか？	はい	いいえ	取組メニュー3-① 防災について話し合う機会を設ける(事-27 ㄱ)	☆
			2	地域の災害時における安否確認方法を決めていますか？	はい	いいえ	取組メニュー4-③ 要支援者の安否確認方法を考える(事-38 ㄱ)	☆☆
II 防災力を伸ばす	1	防災資源管理・情報発信	1	地域内被害想定危険箇所や防災資源を踏まえた防災マップを作っていますか？	はい	いいえ	取組メニュー1-① まち歩きを行う(事-2 ㄱ) 取組メニュー4-① 防災マップを作る(事-32 ㄱ)	☆☆
			2	地域内の防災活動等について定期的に情報提供するためのチラシを作っていますか？	はい	いいえ	取組メニュー2-① 啓発・周知のためのチラシを作る(事-11 ㄱ)	☆☆
	2	活動継続・意識啓発	1	平時からの地域との連携を意識した防災活動に向け、地域行事と連携していますか？	はい	いいえ	取組メニュー2-③ 地域行事に合わせて活動する(事-16 ㄱ)	☆
			2	地域で適切な避難行動を身に付けるための自発的な防災訓練を実施していますか？	はい	いいえ	取組メニュー1-② 災害図上訓練(DIG)を行う(事-8 ㄱ) 取組メニュー2-② 参加者に楽しさを提供する(事-15 ㄱ) 取組メニュー5-① 自主防災組織が主体となった防災訓練を行う(事-40 ㄱ) 取組メニュー5-② 安否確認訓練を行う(事-43 ㄱ) 取組メニュー5-③ 避難所開設訓練を行う(事-45 ㄱ)	☆☆
			3	災害のイメージや防災対策をよりわかりやすく理解させるため、体験型の学習を実施していますか？	はい	いいえ	取組メニュー2-④ 体験型の学習を行う(事-18 ㄱ)	☆☆
			4	住民の防災意識の向上のため、防災に関する住民意識を把握していますか？	はい	いいえ	取組メニュー6-① 防災に関する意識調査を行う(事-51 ㄱ)	☆☆
			5	地域に日頃からの防災への備えを呼び掛けるため、講座や勉強会を開催していますか？	はい	いいえ	取組メニュー3-③ 防災講座や勉強会を開催する機会を設ける(事-30 ㄱ)	☆☆
			6	自主防災組織が災害時に率先して対応できるように、避難所運営ゲーム(HUG)を実施していますか？	はい	いいえ	取組メニュー4-② 「避難所運営ゲーム(HUG)」を行う(事-36 ㄱ)	☆☆☆
			7	防災対策を充実させるためのワークショップを実施していますか？	はい	いいえ	取組メニュー3-② ワークショップを行う(事-29 ㄱ)	☆☆☆
			III 防災力を広げる	1	地域内の関係機関との連携・協力	1	地域団体・組織(青年団等)と連携・協力していますか？	はい
2	学校と連携・協力していますか？	はい	いいえ			取組メニュー2-⑥ 学校と連携・協力する(事-22 ㄱ)	☆☆	
3	医療・福祉機関・企業等と連携・協力していますか？	はい	いいえ			取組メニュー2-⑦ 医療・福祉機関、企業等と連携・協力する(事-24 ㄱ)	☆☆☆	

3ヶ年程度の取組表・年間活動計画表

① 3ヶ年程度の取組表

活動テーマ	取組内容	実施頻度	1年目	2年目	3年目

② 年間活動計画表

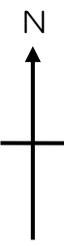
活動内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

まち歩きチェックリスト

視点	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	チェック項目	活用 資源	番号
ア 火災・延焼	<input type="checkbox"/>	家屋の周囲に燃えやすいもの（材木や建材を含む）がある		ア-1
	<input type="checkbox"/>	近くに危険物・可燃物を扱う施設がある（ガソリンスタンドを含む）		ア-2
	<input type="checkbox"/>	緊急車両が入れない地域がある		ア-3
イ 家屋	<input type="checkbox"/>	夜間無人となる施設や倉庫がある		イ-1
	<input type="checkbox"/>	近くに老朽化した空き家がある		イ-2
ウ 避難行動	<input type="checkbox"/>	道幅 1.5m以下の道路がある		ウ-1
	<input type="checkbox"/>	ガラスの破損・飛散の恐れのある高い建物がある		ウ-2
	<input type="checkbox"/>	バルコニーなどから物の落ちるおそれのあるマンション・住居がある		ウ-3
	<input type="checkbox"/>	風や地震などで飛ばされる恐れのある広告物がある		ウ-4
	<input type="checkbox"/>	倒壊して道路をふさぐ恐れのある建造物がある		ウ-5
	<input type="checkbox"/>	狭い道路に面して転倒防止をしていない高い塀がある		ウ-6
	<input type="checkbox"/>	ひび割れ、欠損、剥離のあるブロック塀がある		ウ-7
	<input type="checkbox"/>	地震や津波の際、危険を避けるために逃げ込める耐震建築がある	資)	ウ-8
	<input type="checkbox"/>	一時避難ないし滞留を受け入れてくれそうな事業所がある	資)	ウ-9
	<input type="checkbox"/>	公衆電話の位置を把握している	資)	ウ-10
	<input type="checkbox"/>	地面にひび割れがある		ウ-11
	<input type="checkbox"/>	道路工事中の区間がある		ウ-12
エ 地域住民	<input type="checkbox"/>	近くに高齢の独居老人（昼間だけ一人の方を含む）が暮らしている		エ-1
	<input type="checkbox"/>	近くに日本語のわからない外国人がいる		エ-2
	<input type="checkbox"/>	自治会未加入者のマンション、住宅がある		エ-3
オ 避難生活	<input type="checkbox"/>	近くに福祉避難所がある	資)	オ-1
	<input type="checkbox"/>	近くに公立・民間の保育園がある	資)	オ-2
	<input type="checkbox"/>	周辺の医院（病院）とその種類を把握している	資)	オ-3
	<input type="checkbox"/>	生活用水に利用できそうな井戸がある	資)	オ-4
	<input type="checkbox"/>	近くに災害時にテント生活ができる公園がある	資)	オ-5
	<input type="checkbox"/>	近くにスーパーマーケット、ホームセンターがある	資)	オ-6
	<input type="checkbox"/>	医師の処方箋による医薬品の買える薬局がある	資)	オ-7
カ 救援	<input type="checkbox"/>	パワーショベルや建物の解体用機器をもっている事業所がある	資)	カ-1
	<input type="checkbox"/>	防災備蓄倉庫の場所を把握している	資)	カ-2
	<input type="checkbox"/>	指定避難所のスペース不足で保管できない支援物資を保管できる施設がある	資)	カ-3
キ 救助	<input type="checkbox"/>	AEDの設置場所を把握している	資)	キ-1
ク 水害	<input type="checkbox"/>	河川の通常水位よりも低い土地がある		ク-1
	<input type="checkbox"/>	河川に草木が繁茂し水の流れを妨げ増水時に越流の恐れがある		ク-2
	<input type="checkbox"/>	橋脚の間隔が狭く流木等が引っ掛かりやすい橋がある		ク-3
	<input type="checkbox"/>	雨が降るとあふれやすい箇所がある		ク-4
	<input type="checkbox"/>	過去に氾濫した箇所がある		ク-5
	<input type="checkbox"/>	川の流域近くに民家が多い		ク-6
	<input type="checkbox"/>	浸水時、道路との境界がわかりにくくなる水路や側溝がある		ク-7
	<input type="checkbox"/>	浸水すると歩道と道路の段差がわかりづらい箇所がある		ク-8
	<input type="checkbox"/>	大雨で川のようになる傾斜路がある		ク-9
	<input type="checkbox"/>	アンダーパスや地下道があり浸水時通れなくなる恐れがある		ク-10
	<input type="checkbox"/>	水はけの悪い土地がある		ク-11
	<input type="checkbox"/>	側溝や水路に雑草が繁茂し、ごみがたまっている		ク-12
	<input type="checkbox"/>	過去にがけ崩れがあった		ク-13

防災マップ作成様式

凡 例	
	一時避難所
	指定避難所
	病院・医療機関
	公園・広場等
	その他公共公益的施設
	防火水槽・プール等
	自動対外式除細動器
	公衆電話
	自動販売機
	幹線道路
	掲示板
	集会所
	警察(交番)
	給水ステーション
	防災トイレ
	防災スピーカー



学校施設歩きチェックリスト

①学校施設【内部】

項目		点検の視点	結果コメント
居住スペース	① 居住スペース	広い方が望ましいですが、多くの避難者が見込まれることから、面積が限られます。	
	② 居住班の 割り振り	地区ごとに割り振るとコミュニティの維持につながり、避難所生活でも安心感が得られます。	
	③ 通路	車いすの通行を考慮すると 1.5m 程度必要です。出入り口付近などの施設利用を妨げない場所に設置します。	
介護・医療スペース	④ 救護室	体を横たわることができる部屋があれば望ましいです。容体の変化も考慮して、必要に応じて、予備的なスペースも確保します。	
	⑤ 要配慮者 スペース	要配慮者の健康維持に配慮して配置します。必要に応じて、予備的なスペースもできれば確保します。	
運営に必要なスペース	⑥ 本部	避難所全体の状況を把握しやすい場所が適しています。避難所運営委員会などを開くため、会議が行えるスペースも合わせて考えます。	
	⑦ 炊き出し スペース	屋外に配置する場合は、火気の取り扱いに注意するとともに、水場などが利用しやすい場所が利用に向いています。	
	⑧ 支援物資関連 スペース	搬入がしやすく管理が容易な場所、避難者に受け渡しがしやすい場所に配置します。運営の透明化のため、避難者から支援物資が見える場所に配置することも有効です。	
共有スペース	⑨ 多目的 スペース	個別相談の場所などを想定し、利用します。テレビ等を置いて情報収集の場とすることや、支援物資の受け渡しなどにも活用することができます。	
	⑩ 更衣室	更衣スペースとして、外部からの視線など、プライバシーが確保できる空間を確保します。	

②学校施設【外部】

項 目	点検の視点	結果コメント
⑪ 駐車スペース	避難者用の駐車スペースを設ける場合は、他の用途として利用する場合は無い か確認する必要があります。	
⑫ 物資受入場所	車両の進入が可能で、物資の保管場所に 近い位置に設置すると荷物の積み下ろし 作業が容易です。	
⑬ ゴミ置き場	車両進入の妨げにならない場所で、収集 車による回収が容易な場所に設置しま す。臭いが居住スペースに届かないよう 配慮します。	
⑭ 仮設トイレ	臭いが居住スペースに届かないよう一定 の距離をとりますが、防犯上、人目につ かない場所は避けます。	
⑮ ペットスペース	鳴き声や臭いなどに配慮し設置します。	
⑯ 喫煙スペース	施設の方針（敷地内全面禁煙など）に従 う必要がありますが、設置する場合は火 気や臭い等に注意します。	
⑰ 情報掲示板	避難所外避難者が情報を確認しに来るこ ともあるので、屋外に設置します。	
⑱ 洗濯スペース	物干しスペースが近くなるよう配置しま す。	

アンケート様式（例）

実施日： _____ 年 _____ 月 _____ 日（ _____ 曜日）

校区名： _____

年齢：（いずれかの番号に○印を付けてください）

- 【①20歳未満 ②20歳～30歳未満 ③30歳～40歳未満
④40歳～50歳未満 ⑤50歳～60歳未満 ⑥60歳～70歳未満 ⑦70歳以上】

性別： 【 _____ 】

所属町内会をご記入ください。

以下の設問について、番号に○印を付けてください。また、記入をお願いします。

1. 今朝は、一時避難所に避難してから、指定避難所（〇〇小学校）に来ましたか？

- ①はい ②いいえ

【上記「①はい」回答の方へ】

1-1 自分の地域の一時避難所までの経路を決めていますか？

- ①おおむね決めている（複数） ②決めていない

【上記「②いいえ」回答の方へ】

1-2 自分の地域の一時避難所を知っていますか？

- ①知っている ②知らない

2. 避難所開設訓練については、参考になりましたか？

- ①おおむね分かった ②少し分かった ③分からなかった

3. 煙体験・起震車体験訓練については、参考になりましたか？

- ①おおむね分かった ②少し分かった ③分からなかった

4. 防災グッズや防災写真パネル展示については、参考になりましたか？

- ①おおむね分かった ②少し分かった ③分からなかった

5. 備蓄倉庫の開放見学については、参考になりましたか？

- ①おおむね分かった ②少し分かった ③分からなかった

6. 今後も防災訓練に参加しようと思いませんか？

- ①参加していきたい ②参加したくない ③どちらでもない

7. 本日の防災訓練に関する感想をご自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

取組メニュー事例集

取組メニュー事例集

目次

<u>活動分野と取組メニューの関係</u>	事-1
<u>取組メニュー1 地域特性を把握する</u>	事-2
① まち歩きを行う.....	事-2
② 災害図上訓練（DIG）を行う.....	事-8
<u>取組メニュー2 防災の担い手を増やす</u>	事-11
① 啓発・周知のためのチラシを作る.....	事-11
② 参加者に楽しみを提供する.....	事-15
③ 地域行事に合わせて活動する.....	事-16
④ 体験型の学習を行う.....	事-18
⑤ 地域団体・組織と連携・協力する.....	事-20
⑥ 学校と連携・協力する.....	事-22
⑦ 医療・福祉機関、企業等と連携・協力する.....	事-24
<u>取組メニュー3 防災意識や知識を広める</u>	事-27
① 防災について話し合う機会を設ける.....	事-27
② ワークショップを行う.....	事-29
③ 防災講座や勉強会を開催する機会を設ける.....	事-30
<u>取組メニュー4 避難誘導を考える</u>	事-32
① 防災マップを作る.....	事-32
② 避難所運営ゲーム（HUG）を行う.....	事-36
③ 要支援者の安否確認方法を考える.....	事-38
<u>取組メニュー5 防災訓練を体験する</u>	事-40
① 自主防災組織が主体となった防災訓練を行う.....	事-40
② 安否確認訓練を行う.....	事-43
③ 避難所開設訓練を行う.....	事-45
<u>取組メニュー6 地域の意見などを集める</u>	事-51
① 防災に関する意識調査を行う.....	事-51

取組メニュー1 地域特性を把握する

①まち歩きを行う

- 地域において、災害時に危険と思う場所、あるいは災害時に役に立つと思う場所・資源を地域の関係者間で共有することを目的に行います。

1	対象者	<input type="checkbox"/> 自主防災組織の役員 <input type="checkbox"/> 地域住民
2	準備するもの	<input type="checkbox"/> 様式 4 (まち歩きチェックリスト) <input type="checkbox"/> 地域の地図 <input type="checkbox"/> 筆記具 <input type="checkbox"/> カメラ (必要に応じて、メジャー等)
3	実施ポイント	地形状況や危険箇所、あるいは車椅子が通れない道の確認など、普段は意外と知らない自分のまちの特徴を知ることが、自主防災活動を考えていく第一歩となります。チェックリストを参考に、実際にまちを歩いて確認しましょう。

手順

ステップ1 目的と歩く範囲、時間を決めます

- チェックリストと地図を参考に、まち歩きの目的と歩く範囲(確認事項、コース等)、時間を決めます。地図はなるべく地域情報が書かれたものを用意しましょう。

ステップ2 チェックリストを参考に現地を歩きます

- チェックリストに該当する項目を、歩いて確認し、まち歩きでの気づきを地図に書き込みましょう。
- 気になる箇所は写真に収め、必要に応じて撮影ポイントを地図に記入します。

ステップ3 まち歩き結果を地図に書き込み、話し合いを行います

- 気になった箇所などを1枚の地図にまとめます。また、整理した結果をもとに話し合い、参加者全員で情報共有します。

ステップ4 書き込んだ地図を地域に発信します

- まち歩きの結果を整理した地図は、後に、戸別配布や公民館・集会所に掲示するなど、成果として地域全体で情報共有しましょう。

事例

1	実施地域	鳳校区
2	実施時期	平成 29 年 10 月
3	参加者	自主防災組織の役員、地域住民
4	準備品	<input type="checkbox"/> まち歩き図 <input type="checkbox"/> まち歩きチェックリスト (事-3 参照) <input type="checkbox"/> 筆記具 <input type="checkbox"/> 付箋 <input type="checkbox"/> カメラ
5	実施内容	【実施テーマ】 災害を知る、話し合う (防災上の課題出し) [まち歩きコース: 4 班: 各約 2 km] 大規模災害時に危険な場所、あるいは役に立つ場所・資源等の気づきを関係者間で情報共有する。①全体説明→②まち歩き (災害を知る: 鳳小学校を起終点)→③話し合う (防災上の課題出し)→④発表する (今後に向けて)→⑤まとめ

● チェックリスト例（鳳校区まち歩き）

見る視点	該当するものがあれば✓印	具体例	施設名など
視点	チェック	チェック項目	活用資源 番号
ア 火災・延焼	<input type="checkbox"/>	家屋の周囲に燃えやすいもの（材木や建材を含む）がある	
	<input type="checkbox"/>	近くに危険物・可燃物を扱う施設がある（ガソリンスタンドを含む）	
	<input type="checkbox"/>	緊急車両が入れない地域がある	
イ 家屋	<input type="checkbox"/>	夜間無人となる施設や倉庫がある	
	<input type="checkbox"/>	近くに老朽化した空き家がある	
ウ 避難行動	<input type="checkbox"/>	道幅 1.5m以下の道路がある	
	<input type="checkbox"/>	ガラスの破損・飛散の恐れのある高い建物がある	
	<input type="checkbox"/>	ベランダなどから物の落ちるおそれのあるマンション・住居がある	
	<input type="checkbox"/>	風や地震などで飛ばされる恐れのある広告物がある	
	<input type="checkbox"/>	倒壊して道路をふさぐ恐れのある建造物がある	
	<input type="checkbox"/>	狭い道路に面して転倒防止をしていない高い塀がある	
	<input type="checkbox"/>	ひび割れ、欠損、剥離のあるブロック塀がある	
	<input type="checkbox"/>	地震や津波の際、危険を避けるために逃げ込める耐震建築がある	資)
	<input type="checkbox"/>	一時避難ないし滞留を受け入れてくれそうな事業所がある	資)
	<input type="checkbox"/>	公衆電話の位置を把握している	資)
	<input type="checkbox"/>	地面にひび割れがある	
	<input type="checkbox"/>	道路工事中の区間がある	
エ 地域住民	<input type="checkbox"/>	近くに高齢の独居老人（昼間だけ一人の方を含む）が暮らしている	
	<input type="checkbox"/>	近くに日本語のわからない外国人がいる	
	<input type="checkbox"/>	自治会未加入者のマンション、住宅がある	
オ 避難生活	<input type="checkbox"/>	近くに福祉避難所がある	資)
	<input type="checkbox"/>	近くに公立・民間の保育園がある	資)
	<input type="checkbox"/>	周辺の医院（病院）とその種類を把握している	資)
	<input type="checkbox"/>	生活用水に利用できそうな井戸がある	資)
	<input type="checkbox"/>	近くに災害時にテント生活ができる公園がある	資)
	<input type="checkbox"/>	近くにスーパーマーケット、ホームセンターがある	資)
	<input type="checkbox"/>	医師の処方箋による医薬品の買える薬局がある	資)
カ 救援	<input type="checkbox"/>	パワーショベルや建物の解体用機器をもっている事業所がある	資)
	<input type="checkbox"/>	防災備蓄倉庫の場所を把握している	資)
	<input type="checkbox"/>	指定避難所のスペース不足で保管できない支援物資を保管できる施設がある	資)
キ 救助	<input type="checkbox"/>	AEDの設置場所を把握している	資)
ク 水害	<input type="checkbox"/>	河川の通常水位よりも低い土地がある	
	<input type="checkbox"/>	河川に草木が繁茂し水の流れを妨げ増水時に越流の恐れがある	
	<input type="checkbox"/>	橋脚の間隔が狭く流木等が引っ掛かりやすい橋がある	
	<input type="checkbox"/>	雨が降るとあふれやすい箇所がある	
	<input type="checkbox"/>	過去に氾濫した箇所がある	
	<input type="checkbox"/>	川の流域近くに民家が多い	
	<input type="checkbox"/>	浸水時、道路との境界がわかりにくくなる水路や側溝がある	
	<input type="checkbox"/>	浸水すると歩道と道路の段差がわかりづらい箇所がある	
	<input type="checkbox"/>	大雨で川のようになる傾斜路がある	
	<input type="checkbox"/>	アンダーパスや地下道があり浸水時通れなくなる恐れがある	
	<input type="checkbox"/>	水はけの悪い土地がある	
	<input type="checkbox"/>	側溝や水路に雑草が繁茂し、ごみがたまっている	
	<input type="checkbox"/>	過去にがけ崩れがあった	



〔鳳校区〕訓練結果一覧

	A班	B班	C班	D班
ワークショップの風景				
地震・台風時に「危険」だと思う所	<ul style="list-style-type: none"> ①古い空き家 ②ガソリンスタンド、燃料店 ③道路幅が狭い 	<ul style="list-style-type: none"> ①ブロック塀 ②空き家、廃屋 ③ため池 	<ul style="list-style-type: none"> ①（鳳北町3丁）道幅が狭い ②（大鳥大社周辺）樹木、石柵 ③（鳳北町7～10丁）水路の氾濫 	<ul style="list-style-type: none"> ①JR 阪和線北一番踏切 ②可燃物倉庫 ③大鳥大社の南側の石垣
同「役に立つ」と思う所	<ul style="list-style-type: none"> ①薬局・医院 ②ホームセンター、コンビニエンスストア、スーパー ③駅、学校 	<ul style="list-style-type: none"> ①コンビニエンスストア ②鳳北町公園 	<ul style="list-style-type: none"> ①鳳北町第一公園、大鳥大社 ②コンビニエンスストア、スーパー ③公衆電話 	<ul style="list-style-type: none"> ①市営住宅跡地
の自助・共助あり方	<ul style="list-style-type: none"> ①生活必需品の備蓄 ②近助付き合い 	<ul style="list-style-type: none"> ①避難経路の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ①各自の意識 	

結果は、校区カルテのうち、「地域が把握する危険箇所」や「施設・地域資源」に反映し、防災活動の検討材料としています。

1	実施地域	御池台校区
2	実施時期	平成 28 年 11 月、12 月、平成 29 年 11 月
3	参加者	地域住民、御池台小学校 5 年生
4	準備品	[事務局] □まち歩き図 □チェックリスト [参加者] □飲料水 □帽子 □筆記具
5	実施内容	【実施テーマ】地域の災害リスクと災害対応力を知る。考える [まち歩きコース：約 4km] ①御池台地域会館→②御池台小学校と高架橋でできた遊歩道 →③遊歩道の連続したフェンスと防火水槽→④沖積谷との比高 →⑤御池台配水池→⑥旧谷地形・谷埋め盛り土の末端の状況 →⑦マンホールトイレと防災倉庫→⑧庭代集落記念碑

まち歩きの視点

- 高架橋
- 防火水槽
- 配水池など

平成 29 年度のまち歩き訓練では、前年度学習した小学 6 年生が小学 5 年生を対象に、まち歩き訓練の説明を部分的に担当。

御池台校区まち歩きコース図

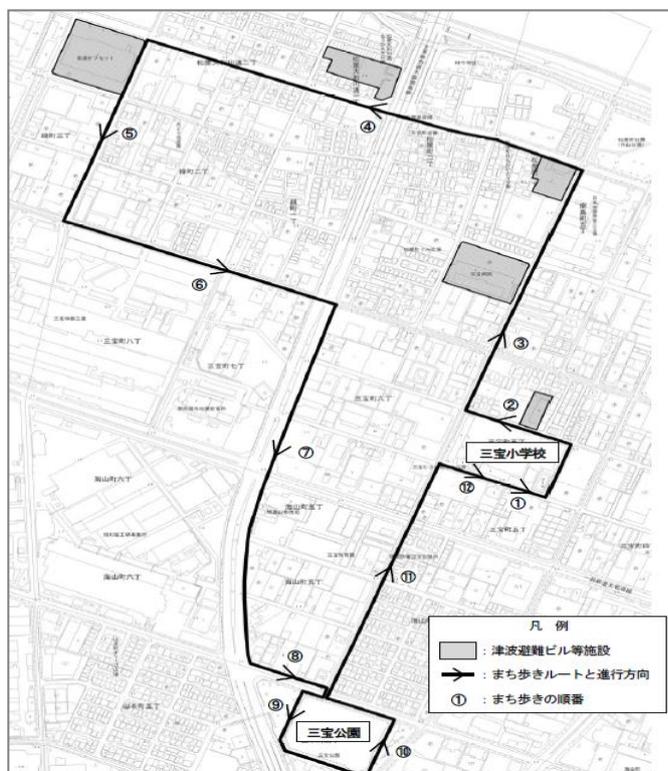
1	実施地域	三宝校区
2	実施時期	平成 29 年 10 月
3	参加者	ふらっと三宝、地域住民、自主防災組織の役員
4	準備品	□まち歩きコース図 □チェックリスト □筆記具 □ノルディックポール □その他（例：雨具）
5	実施内容	【実施テーマ】ウォーキングで防災意識を高めよう！ [まち歩きコース：1ルート約 2.8km。津波避難時の目的地（浅香山）までの距離を想定] ①三宝小学校（起終点）→②津波避難ビル等施設→③三宝公園（広域避難地：災害用トイレ組立見学）→④三宝小学校（起終点）

津波から逃げられる場所（浅香山または（緊急時は）津波避難ビル）までの道のりを歩きながら、三宝校区に“どんな防災情報”があるか見てみましょう。

- 避難途中で、**工事中**（道が通れない）の区間はないか？
- 避難途中で、**細い道**（ブロック塀の倒壊の恐れ）はないか？
- 避難途中で、**地下道**（アンダーパス等）はないか？
- 避難途中で、**危険物**を取り扱うところ（工場等）はないか？
- 避難途中で、**木造家屋**が密集している地域はないか？

平成 29 年 5 月に「三宝校区地域ケア会議」を開催し、その中で“ふらっと三宝”主催の「ウォーキングで防災意識を高めよう！」が提案され、三宝校区自治連合町会、校区内の企業、医療・福祉機関も連携し、実現したまち歩き訓練です。目的は、自身の歩く能力を知り、健康増進の意識付けを図るとともに、防災面から避難を検討する機会としても捉えたものです。

三宝校区まち歩きの主な視点（歩く距離の疑似体験：津波避難ビルや広域避難地確認等）



ノルディックポール



三宝校区まち歩き例（H29.10）

ワン
ポイント

- ◇ 沿岸部や川沿いの付近では、避難が困難な区域の有無や避難所・避難ビルまでの距離、内陸部では住宅密集地での被害（木造家屋倒壊、狭い道やブロック塀による消防活動が困難等）や孤立（道路・橋の寸断等）の有無などが、確認のポイントになります。
- ◇ まち全体を見渡せる場所（高台等）があればまち歩きのコースに入れてみましょう。
- ◇ 防災倉庫の備品や地域資源（例：一時的な避難スペース、消火栓の位置など）もチェックしましょう。
- ◇ 急いで歩く必要はありません。ゆっくりと歩けるように、目標タイムを設定することも有効です。
- ◇ 交通等の安全対策には十分に留意してください。集団行動（複数班の場合もあり）が基本です。
- ◇ まち歩きの結果を地図にまとめ、「防災マップ」として地域に配りましょう。地域全体で情報共有することで、地域での災害特性などが周知され、各単位町会での個別の対策の検討などにつながる可能性があります。

②災害図上訓練（DIG）※を行う

- 参加者が地図を囲みながら、ゲーム感覚で災害時の対応を考える災害図上訓練です。
※「Disaster（災害）、Imagination（想像力）、Game（ゲーム）の頭文字からの造語で「災害図上訓練」のこと」

1	対象者	<input type="checkbox"/> 自主防災組織の役員 <input type="checkbox"/> 地域住民
2	準備するもの	<input type="checkbox"/> 地域の地図 <input type="checkbox"/> 地域の災害危険箇所図（堺市区別防災マップ、防災ガイドブック等） <input type="checkbox"/> 透明シート（地図の上に合わせて記載するもの） <input type="checkbox"/> マーカーなど
3	実施ポイント	堺市区別防災マップや防災ガイドブックなどを参考にして、地域で起こり得る災害を想定し、危険が予測される箇所や事態を地図上に書き込みましょう。地図上で災害危険箇所などを把握することで、避難・備え・連絡体制などを考えることができ、自主防災活動の進め方を考えるきっかけとなります。

手順

ステップ1 地図を活用し、起こり得る災害を想定します

- 全体を何グループかに分けます。
- 堺市区別防災マップや防災ガイドブックなどを参考にして、図上訓練で想定する災害がどのようなものか、進行役が参加者へ説明します。想定する災害は、地域住民の関心の高いものが効果的です。

ステップ2 地域内の基礎情報を書き込みます

- 道路、河川、公園、公共施設、避難所など、まちを形作っている施設などの基礎情報を書き込みます。他にも、スーパーやコンビニ、病院、ガソリンスタンドなどの民間施設も書き込んでおきましょう。

ステップ3 災害情報を書き込みます

- 決めておいた想定災害を参考に、災害による危険箇所を地図へ書き込みます。

ステップ4 書き込んだ地図をもとに話し合います

- ステップ4までの内容を書き込んだ地図をもとに、自分たちのまちを再確認し、地図上に広がる被災イメージを踏まえ、災害時に役立つ施設、避難場所、避難経路などについて話し合います。

ステップ5 参加者全員で情報共有します

- 話し合った結果を発表し合い、参加者全員で情報共有しましょう。

ワンポイント

- ◇ 道具を全てそろえなくても構いません。地図とペンを用意し、まずは実施することが大切です。
- ◇ 堺市区別防災マップや防災ガイドブックなどを参考にして、沿岸部・川沿いの付近・内陸部によって、それぞれの地域で起こり得る災害を想定することが大切です。
- ◇ 参加者全員が内容を理解することができるよう、丁寧に進めていきましょう。
- ◇ 結果の発表では、他グループの意見により、新たな気づきを発見できる場合があります。必要に応じて、発表後にもう一度グループで話し合しましょう。

1. グループごとに次の項目について書き出してみてください

- ・この地域の特徴は？
- ・この地域の（防災・災害救援についての）プラス要素は？
- ・この地域の（防災・災害救援についての）マイナス要素は？

※ 1項目ずつ付箋に書き出します。

※ 重複があってもかまいません。



2. グループごとに発表し、参加者全員で発見を共有しましょう

※ まとめ・発表はなるべく行うようにしてください。

※ 自らの発見を確認し、お互いの発見を共有するためには、まとめ・発表は不可欠です。グループ数が多かったりDIGの時間が短い場合は代表又は一部のグループに発表してもらう方法もあります。DIGの「総まとめ」という意味でも、是非行ってください。



資料：静岡県「DIGをやってみよう！【初級編】」

<http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/e-quakes/manabu/dig/O4/O405.html>

マップを使った訓練

地区住民を交えた防災マップの作成※1

地区住民と防災マップを作成しました。また、高知赤十字病院に講師を依頼し、AEDの取扱い等の研修なども行いました。

- 七里地区自主防災組織（※1）
設立：平成25年度 世帯数：365世帯 人口：820人
- 米奥地区自主防災組織（※1）
設立：平成25年度 世帯数：291世帯 人口：528人
- 仁井田地区自主防災組織（※2）
設立：平成16年度 世帯数：760世帯 人口：1,567人

小学生を交えて図上訓練※2

NPO高知市民会議から講師を招いて図上訓練を行いました。小学生も参加し、炊き出し、防災倉庫確認も同時に行いました。

資料：「自主防災活動事例集」高知県,平成 29 年 3 月

DIGシール等凡例

No	シール等	内 容	備 考	No	シール等	内 容
1		幹線道路		20		要援護者
2		狭い道		21		老朽住宅
3		耐震性がないか不明の建物		22		補強していないブロック塀
4		河川、池、プール		23		ボランティアセンター
5		防火水槽、防火井戸		24		津波避難ビル
6		救護所		25		ヘリポート
7		救護病院、災害拠点病院		26		自衛隊集結地
8		薬局		27		津波浸水の危険が予想される地域
9		市役所(町役場)、防災拠点	○小学校には防災無線?	28		液状化危険予想地域
10		警察署・交番		29		山・崖崩れの危険が予想される地域
11		消防署(分団)		30		延焼火災危険予想地域
12		自主防本部				
13		防災倉庫	鍵の持主は? 固定?			
14		可搬型消防ポンプ				
15		広域避難地				
16		避難地				
17		最寄の空き地・公園				
18		避難所	要・応急危険度判定			
19		重機を保有する事業所				

倒れそうな建物、看板、自販機等・茶色(細いマジック)で塗る。
 落橋・黒で× 通行できない道路 赤で塗る
 道路の亀裂・黒で× 通行できない道路 赤で塗る

地図に書き込む凡例(例)

(資料：静岡県地震防災センター)

取組メニュー2 防災の担い手を増やす

①啓発・周知のためのチラシを作る

- 企画した活動を地域に周知する取組です。

1	対象者	<input type="checkbox"/> 地域住民
2	準備するもの	<input type="checkbox"/> チラシ作成用の用紙
3	実施ポイント	<p>企画した活動の案内を地域住民に知らせるため、“目に付きやすく、わかりやすい”チラシを作りましょう。周知方法を工夫することで、より広い範囲で活動が認識され、幅広い年代または年齢層の参加促進につながります。</p> <p>活動案内だけでなく、活動者募集のチラシを提示することも、一緒に活動する仲間を増やすのに有効です。</p>

手順

ステップ1 作る目的と周知する対象者を決めます

- どのような活動のために作るのか、どのような人を対象に周知するのかを考え、チラシの見出しを決めます。

ステップ2 掲載する情報を整理します

- チラシの掲載内容（例）：目的、主催、開催日時、会場、活動内容や実施手順の概略、参加費など

ステップ3 チラシを配布・掲示します

- より多くの人へ周知できるよう工夫しましょう。

ワンポイント

- ◇ チラシを作るには確定した情報が必要です。地域でしっかりと話し合い、あとで修正することがないように掲載する情報を決めましょう。
- ◇ イラスト・写真などを用いて親しみやすくすると、子どもの目に止まり、家族単位での参加促進にもつながります。
- ◇ 作ったチラシは、地域住民が予定を立てやすいよう、なるべく早めに配布・掲示しましょう。早めに配布・掲示することで、人から人へと情報が広がりやすくなります。

- **錦西校区の防災だより**：避難所レイアウト（案）等の検討結果を、定期的に発行している防災だよりを用いて、地域住民に情報共有しています。錦西校区カルテにもレイアウト（案）を追加しています。

防災だより (1) 平成29年9月26日 第6号

防災だより

発行：錦西校区自主防災会
発行所：市役所

「災害地区班員の仕事」

私は、昨年より錦西校区災害地区班副班長として活動しています。この仕事は、災害発生時に、被災者の方々の安全確保や、避難所運営のサポートなど、大変重要な役割を担っています。班員の方々と協力して、地域住民の安全と安心を確保するために活動しています。

「災害に対する備え」

災害発生時に備えて、家族や近所の方々と協力して備えをすすめていくことが大切です。まずは、家族の安全確保のために、避難所や避難経路を確認し、必要な物資を準備しましょう。また、災害発生時の対応方法についても、家族や近所の方々と話し合い、確認しておくことが大切です。

お気づきでしたか？ 防災スピーカーのメッセージ

避難所の中、クーラーをかけ窓を閉め切っていたため暑さを感じた。窓を開けると、防災スピーカーの音が聞こえてきました。そこからは、避難所運営の案内や、避難所での注意事項などが放送されていました。この防災スピーカーは、避難所運営のサポートに大変重要な役割を果たしています。

防災だより (2) 平成29年9月26日 第6号

近隣の指定避難所・月州中学校

錦西校区自主防災会

万が一の災害に備えて学校で泊まることを目的としたキャンプです。避難所としての役割を担い、避難生活を送る方々の安全と安心を確保するために活動しています。

● 避難所が開設されると、正門と西門が閉鎖され体育館が使用されます

● 避難所の開設は、錦西小学校や近所、近所から地区班員2名が配置されます

● 避難所での備品のやりとりは、防災班員が利用できます

● 備品管理（コンテナ型）は、避難所の全小学校に設置されており、備品管理の内容は、防災だよりに掲載されています

「まちづくり防災フォーラム2017」

日本防災士会 関西ブロック主催
日時：平成29年10月1日（日）午後6時～7時 会場：堺市総合福祉センター 第一会議室

● 防災士の認定申請書による「防災士」の申請についてのご案内
● 避難所運営支援についてのご案内
● 防災士と防災班員の違いについてのご案内
● 防災士と防災班員の役割についてのご案内

【防災ガイド】

避難所での生活のために、タンクや戸締りなどが壊れていないように、事前に確認しておくことが大切です。また、避難所での生活のために、タンクや戸締りなどが壊れていないように、事前に確認しておくことが大切です。

逃げる防災

避難所に行く前に、避難所までの経路を確認しておくことが大切です。また、避難所での生活のために、タンクや戸締りなどが壊れていないように、事前に確認しておくことが大切です。

(拡大図)

錦西校区防災訓練

■ 6月25日(日) ■
■ 訓練参加人数 350名 ■

上町断層帯地震(震度6)の災害を想定し錦西小学校を避難所として自主防災訓練をしました

訓練内容

- 避難所レイアウト訓練 (写真上と右図参照)
- 煙体験と震度7を想定した起震車の体験
- 非常持出品の確認訓練「何を持って逃げる？」

体験者の感想

- 割り当てられた一人当たりスペース(1.6㎡)の狭さに驚いた
- 車いす利用者のスペースは、もっとトイレに近いところが良い
- 煙・起震車体験では恐怖感があった
- いざ避難する時に、何を持って逃げればよいのか改めて日常から備えておく必要性を感じた

この防災訓練は堺市のモデル校区と決められています。今後もさらに地域における自助・共助を推進し地域防災力の向上に努めます。

11月末に開催予定
各自治会をスタートし設定された避難場所まで防災マップをもとに歩いて避難経路を確認してください。

防災マップで歩いてみよう

錦西小学校体育館避難所レイアウト(A)

錦西校区自主防災会 H29.2.28修正

入口

～「岐阜県安八町 西結中組区」～

実施内容を記載

自然災害から自らの命、家族の命を守るために!

地域で起こり得る災害の危険性を共有し、みんなで避難方法を再確認しませんか?

自然災害による被害の軽減のためには、住民のみならず自身による適切な避難がきわめて重要で、このたび、西結・中組地区では、内閣府の支援を受けながら、「自然災害から命を守る! ワークショップ」を開催することとなりました。改めて、地域で起こり得る災害の危険性をみなさんとともに共有化し、避難行動の方法を考える良い機会です。多くの参加をお待ちしています。「自然災害から命を守る! ワークショップ」は、つぎの内容を実施する予定です。

第1回 (12月5日)
◀地域で起こり得る災害の危険性を共有化!
 ・国土交通省木曽川上流河川事務所から、地域の災害危険性(水害)についてお話いただくとともに、岐阜県や安八町役場から、防災の取り組みや避難行動の方法について情報提供いただく予定です。

第2回 (日程調整中)
◀まち歩きを実施!
 ・安八町のハザードマップに基づき、浸水想定区域を確認するとともに、避難場所や避難経路の状況について、まち歩きを通して確認する予定です。

第3回 (日程調整中)
◀水害時の西結・中組地区の避難方法を考える!
 ・「災害・避難カード」の作成を含め、西結・中組地区における避難方法を検討します。
 ・また、避難行動要支援者の方々への避難支援方法についてもみなさんと検討する予定です。

資料:「災害・避難カード事例集 平成28年度改訂版」内閣府(防災担当)

地区の方々へ取組を広報する

- 取組内容の周知
- 地区住民の防災意識の向上を図ることを目的として、ニュースを作成

(和歌山県那智勝浦町 市野々区) A3二つ折り

資料:「災害・避難カード事例集 平成28年度改訂版」内閣府(防災担当)

②参加者に楽しみを提供する

- 地域の防災活動への参加意欲の向上、活動への継続参加を促進する取組です。

・(例) 炊き出し訓練等

1	対象者	<input type="checkbox"/> 地域住民
2	必要なもの	<input type="checkbox"/> 配布物
3	実施ポイント	活動参加者に“楽しみ”を提供することで、参加意欲の向上や、活動への継続参加が促進されます。

手順

ステップ1 配布条件等を決めます

- 配布対象者と配布条件、配布物を決めます。
- 活動の趣旨に沿った配布物、防災意識の啓発や災害時に役に立つ物など、目的に合わせて決めましょう。

ステップ2 活動実施時に配布します

- あらかじめ決めた条件に基づき、対象者に配布します。

事例

配布物の例



アルファ化米炊き出し



乾パン



防災グッズチェックリスト※

防災訓練での楽しみの創出事例

解説

楽しみながら訓練メニューを企画する

防災活動は、「訓練メニューがマンネリ化している」「参加メンバーがいつも同じで活動が広がらない」といった課題があります。防災のなかに「あそび」の要素を盛り込むことで、さまざまな世代が楽しみながら学ぶことができます。

県では、**防災キャラクターの着ぐるみ**と**腕人形**を貸し出しており、県内各地で活躍しています。



県立高知東高校演劇部のみなさんによる防災キャラクター劇



腕人形を使った防災劇

資料：「自主防災活動事例集」高知県、平成29年3月

※チェックリスト：阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター<<http://www.dri.ne.jp/>>

ワン
ポイント

- ◇ 防災パンフレットなどは、区役所市政情報コーナーや堺市危機管理室などで提供しています。まずは相談してみましょう。
- ◇ 炊き出しを実施するときは、地域団体や地元のスーパーなどに声をかけ、相談しながら実施しましょう。
- ◇ 参加者数が予測できない場合は、あらかじめチラシなどで「記念品は数に限りがある」ことをお知らせしておきましょう。

③地域行事に合わせて活動する

- 防災を意識せずに多くの参加が見込め、地域の様々な団体とのつながりを構築する取組です。

・(例) 盆踊り、運動会、こども会行事、町内清掃等

1	対象者	<input type="checkbox"/> 地域住民
2	必要なもの	<input type="checkbox"/> 地域行事の予定表 <input type="checkbox"/> 行事を実施する団体との調整
3	実施ポイント	地域行事は、幅広い年代、または年齢層・団体を問わず様々な人々が参加する良い機会であり、“防災”を意識せず活動に参加してもらえます。また、地域の様々な団体とのつながりができるだけでなく、行事を主体となり活動する人物、地域で使用している備品の所在など地域の防災資源を知ることできます。

手順

ステップ1 地域行事を洗い出します

- 地域や町内会の“年間予定表”などから、どのような行事がいつ開催されるのかを把握しましょう。

ステップ2 実施に向けた調整を行います

- 準備期間、参加者などを踏まえ、“防災”の要素を取り入れることができそうな行事を決めます。決めた後は、必要に応じて、行事を主催する団体と、実施内容や活動時期などについて調整を行います。

ステップ3 調整した内容に沿って活動します

- 写真を含めて活動記録を取り、実施後の広報に役立てましょう。記録を残しておくことで、活動に携わった役員が交代しても活動を継続することができます。

東京都港区：

地元最大のお祭りである「新橋こいちまつり」のなかで、地元の消防署・消防団と連携しながら、町会員と事業所が一体となって、防災パンフレットの配布、防災グッズや写真の展示、なんでも相談などの防災PRを実施。

資料：「自主防災組織の手引き」消防庁,平成 29 年 3 月

一斉清掃にあわせて、津波避難場所の整備

室戸市東奈良師の津波避難場所は、急傾斜地に近接した場所にあります。限られたスペースを少しでも広く利用するために、年に2、3回のペースで草刈り等の作業を行っています。日程は地区の回覧板で周知し、一斉清掃や国道美化作業等の後に実施しているため、多くの住民が参加しています。

■東奈良師自主防災組織
 設立：平成15年度
 世帯数：104世帯
 人口：228人



草木が繁茂した避難場所周辺の状況



草刈りによって広さと見通しを確保

資料：「自主防災活動事例集」高知県,平成 29 年 3 月

岸和田市：

だんじり小屋という拠点や小屋の中にある様々な資機材、さらにはお祭りを支える人的ネットワークといった地域資源を、いざというときに防災への転換可能なハード（拠点）やソフト（ネットワーク）として有効活用し、防災への取組を進めている地域がある。

資料：「自主防災組織の手引き」消防庁,平成 29 年 3 月

ワンポイント

- ◇ 思いのほか準備や調整に時間がかかるので、その辺りを考慮して地域行事を選びましょう。
- ◇ メインとなる行事の主催者に、活動の趣旨を理解してもらえよう、事前によく話し合うことが大切です。
- ◇ 主催者に「一緒に実施してよかった」と感じてもらうよう、継続した活動を目指しましょう。
- ◇ 活動内容は「日常生活の中で防災を意識できるもの」「短時間で楽しめるもの」などを検討しましょう。

④体験型の学習を行う

- ゲームなどで、参加者自身が体を使って防災を学ぶ取組です。

・(例) クロスロード等

1	対象者	<input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 自主防災組織の役員
2	準備するもの	<input type="checkbox"/> 体験型学習用教材
3	実施ポイント	ゲームなどにより、身構えることなく防災意識を向上できるほか、幅広い年代、または年齢層で実施することができます。

手順

ステップ1 参加者、学習内容を決めます

- 体験型学習教材を選び、学習内容を決め、参加者を募集します。

ステップ2 体験型の学習を実施します

- それぞれの教材の進め方に従って、ゲームなどの体験学習を実施します。

事例

災害対応カードゲーム教材「クロスロード」

ゲームの参加者は、カードに書かれた事例を自らの問題として考え、YESかNOかで自分の考えを示すとともに、参加者同士が意見交換を行いながら、ゲームを進めていきます。

内閣府：

<http://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/torikumi/kth19005.html>



災害対応シミュレーションゲーム「ダイレクトロード」

災害時に周りの人の命を救うために必要な、現実的で具体的な行動を、仲間と協力して楽しみながら学ぶことができます。対象：ビジネス研修や学校での防災学習、地域活動等

神戸市消防局：

<http://www.city.kobe.lg.jp/safety/fire/bousai/directroad.html>



防災紙芝居

子どもたちが遭遇する可能性が高い3つの災害（地震、津波、火事）を題材とした紙芝居です。

神戸学院大学防災・社会貢献ユニット：

<http://www.kobegakuin.ac.jp/~gakusai/bosai/html/katudo.html>



防災かるた

防災・減災をはじめ交通安全など、子どもたちに覚えてほしい「備えの知識」を「かるた」を通じて学ぶ「防災かるた」です。

全労災：<http://www.zenrosai.coop/stories/bousaicarta.html>



防災ビンゴゲーム

縦 3 マス、横 3 マスの白紙のビンゴカードを配布し、「非常用持出品」を 9 個記入してもらい、ビンゴゲームを行います。非常用持出品以外にも、様々なテーマに応用することが可能です。

淀川河川事務所：

<https://www.yodogawa.kkr.mlit.go.jp/activity/comit/kyogikai/kyozai/bingo.html>



ワンポイント

- ◇ 自主防災組織の役員が教材の内容や進め方を覚えるようにしましょう。
- ◇ 沿岸部・川沿いの付近・内陸部など、それぞれの地域の特性に合わせて、想定される災害リスクなどイメージしながら実施しましょう。
- ◇ 体験型学習を始めて実施するときは、進行役が必要になります。また、活動によっては、教材を購入する必要があります。

⑤地域団体・組織と連携・協力する

- 地域で活動している様々な団体・組織と連携・協力することで、参加者が増加し、災害時の連携・協力した活動が可能となる取組です。

・(例) ●●と連携・協力した防災訓練等

1	対象者	<input type="checkbox"/> 地域団体・組織 <input type="checkbox"/> 自主防災組織の役員 <input type="checkbox"/> 地域住民
2	準備するもの	<input type="checkbox"/> 堺市区別防災マップなど
3	実施ポイント	地域で活動している様々な団体・組織と連携・協力することで、参加者が増加するだけでなく、幅広い年代、または年齢層の参加へとつながります。また、日頃から協力体制を築くことで、災害時に連携・協力した活動が可能となります。

手順

ステップ1 目的に合わせ、地域団体・組織を洗い出します

- 地域内にどのような団体・組織が活動しているのかを把握し、実施したい活動に合わせ、連携・協力する団体や組織を決めます。
- 連携・協元に有効な団体(例): 消防団、防災士会、女性会、体育会、老人会、商店会、青年団、子ども会、PTA など

ステップ2 防災の大切さを理解してもらいます

- いきなり活動連携・協力を求めることは困難です。まずは連携・協力していきたい地域団体・組織のリーダーや中心人物に“防災の大切さ・必要性”を理解してもらいましょう。
- そのためには、簡単な勉強会や意見交換会の開催などが有効です。

ステップ3 目的を確認し、実施に向けた調整を行います

- 地域団体・組織と活動内容や日程、活動実施に必要な事項について調整します。

ステップ4 実施し、継続的なものにします

- 実施時は活動記録を取りましょう。連携・協力した地域団体・組織と協力体制を築き、活動を継続的なものにしていきましょう。

事例

地域団体・組織との連携・協力の事例

消防や医療関係者との連携

消防団OB・消防等と連携した防災訓練

毎年、県内一斉避難訓練に合わせて訓練を実施しています。その準備として、8月に地区班長等を中心に訓練打ち合わせ会を行い、目標を定め地元消防団OB、嶺北消防等の協力を得て防災訓練を実施しています。

■西石原自主防災組織
設立：平成17年度
世帯数：96世帯
人口：188人

地区内の人材を活用した取組

災害時にけが人を救助できる体制を地域で整えようと、地区に住んでいる医師や看護師などに声をかけ、災害時緊急医療チームを結成しています。防災訓練では、住民らが負傷者の搬送訓練などに取組んでいます。

■旭天神町東防災会
設立：平成18年度
世帯数：191世帯
人口：457人

資料：「自主防災活動事例集」高知県,平成 29 年 3 月

地域団体・組織との連携・協力の事例

- **三宝校区の防災訓練における組織（例）**：各単位町会とソフトボール活動のチームを通じて結成されたオール三宝（自主防災組織）が連携・協力しながら、安否確認訓練や避難所運営訓練を実施。校区カルテの災害時の組織体制のあり方に反映した取組。※想定災害：上町断層帯地震

平成29年1月29日 三宝校区 安否確認訓練～避難所開設・運営訓練

各単位町会			オール三宝(自主防災組織)		
時間	実施内容	備考	時間	実施内容	備考
9:00	安否確認訓練開始	防災行政無線屋外スピーカー(計6か所)の放送により開始の合図	9:00	安否確認訓練開始・安否確認用「札」の掲示	防災行政無線屋外スピーカー(計6か所)の放送により開始の合図
9:00 ～ 10:00	各世帯で安否確認用「札」の掲示		9:30	三宝小学校(体育館)集合	
10:00 ～ 10:30	・一時集合場所での安否確認集計 ・安否確認集計後、小学校へ移動		9:30 ～ 10:30	【避難所開設訓練】 ・施設安全点検確認訓練 ・避難者名簿による受付準備 ・避難所レイアウト、居住スペース作り訓練	
10:30	三宝小学校(体育館)集合 ・校区全体の安否確認の集計	※ 避難所レイアウト、居住スペース作り訓練が終了していなければ、応援に入る。	10:30	単位町会長と合流 ・校区全体の安否確認の集計	
10:30 ～ 11:30頃	【避難所運営について】 ・避難所運営ルールについて ・安否確認訓練～避難所開設・運営訓練におけるグループワークと発表 ※ 全体を3班程度に分けて、意見交換、発表を実施				
11:30頃	終了				

■ :安否確認訓練
■ :避難所開設・運営訓練

結果は、校区カルテの中の「施設・地域資源」の中の「地域の事業所」や「地域の人的資源」に反映。

資料：三宝校区防災訓練資料

ワン ポイント

- ◇ 思いのほか準備や調整に時間がかかるので、その辺りを考慮して、連携・協力したい地域団体・組織とよく話し合みましょう。また、役割分担を明確にしましょう。
- ◇ 話し合いの時には、専門用語は使わずわかりやすい言葉で説明しましょう。
- ◇ 「どのような防災知識をどの年代または年齢層に広めたいか」をしっかりと検討し、連携・協力する相手を決めていきましょう。

⑥学校と連携・協力する

- 地域と学校が連携・協力した取組です。

・(例) 指定避難所の学校施設歩き(小学校との連携・協力: 鳳校区、八上校区、鳳南校区)、大学との連携・協力(御池台校区: 取組メニュー-1①まち歩きを参照)等

1	対象者	<input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 自主防災組織の役員 <input type="checkbox"/> 地域住民
2	準備するもの	<input type="checkbox"/> 学校施設の配置図(学校施設歩き用) <input type="checkbox"/> 様式6(学校施設歩きのチェックリスト)
3	実施ポイント	地域と学校が連携・協力することで生徒等を通じて幅広い年代または年齢層の参加につながります。また日頃から協力体制を築くことで災害時に連携・協力した活動が可能となります。

手順

ステップ1 学校責任者に声をかけます

- 校長先生や教頭先生など、まずは学校の責任者に声を掛けてみましょう。地域行事などで接点がある場合は、より話を進めやすくなります。

ステップ2 どのような連携・協力が可能か話し合います

- 地域と学校が連携・協力していくために、どのような取組が可能かよく話し合います。
- 学校行事、地域行事など、あらかじめ決められている行事を、うまく活用してみましょう。

ステップ3 連携・協力した取組を実施します

- 話し合いの結果をもとに取組を計画し、実施していきましょう。

事例

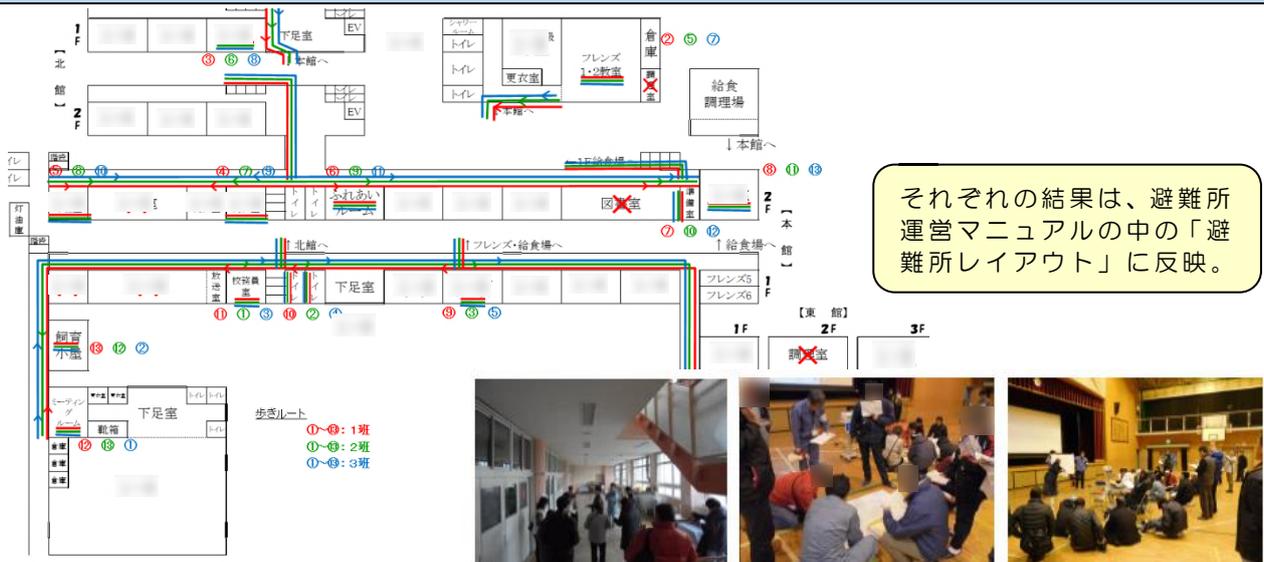
学校との連携・協力の事例

指定避難所の学校施設歩きの見る視点(八上校区の例)

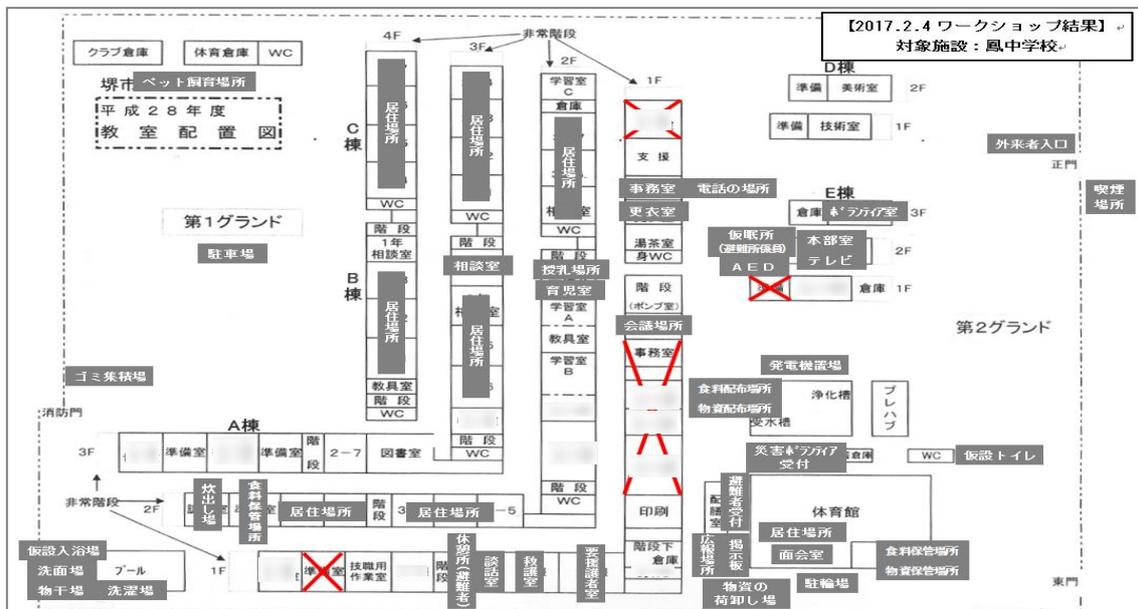
■表1 校舎の利用スペース(WS結果)

スペースの利用目的	八上校区訓練【結果】※重複場所あり
1 収容場所	体育館、普通教室 ※あかちゃん・小児同伴の家庭は[北館2F教室]:女子更衣室等で授乳可
2 介護室、要配慮者の部屋	[北館] フレンズ1・2教室 ※広いスペースが確保可
3 応急救護所	[北館] 教室 ※広いスペースが確保可
4 情報機器設置場所	[体育館] ミーティングルーム ※収容人数の多い体育館の近くに配置
5 情報掲示場所	体育館の入り口、正門の入り口、応急救護所
6 緊急車両駐車場	正門の周辺、体育館の横、プールの横 ※人の通行安全を確保するため、できるだけ端に配置
7 臨時遺体安置場所	[東館] 少人数ルーム ※収容人数の多い体育館から一番離れた場所
8 給水場所	体育館の前(職員室の前) ※収容人員の多い体育館から近い場所(使いやすさ)
9 救援物資集積・配布場所	[体育館] ミーティングルーム・下足室
10 学校管理運営所(連絡所)	[体育館] ミーティングルーム
11 ベット住まい	[東館] 少人数ルーム ※収容人数の多い体育館から一番離れた場所
12 仮設電話設置場所	[体育館] 下足室
13 更衣室	[体育館] 更衣室
14 洗濯場所	[北館] 1階
15 物干し場	[北館] 1階
16 風呂	[東館] 少人数ルーム
17 相談室	[本館] 理科準備室 ※こじんまりした場所
18 調理室	[体育館] ミーティングルーム
19 仮設トイレ設置場所	体育館の横(水路あり)
20 ゴミ集積場所	体育館の横 ※体育館の近く(使い勝手が良い)
21 喫煙場所	西門の外(運動会と同じ場所: 学校内禁止)

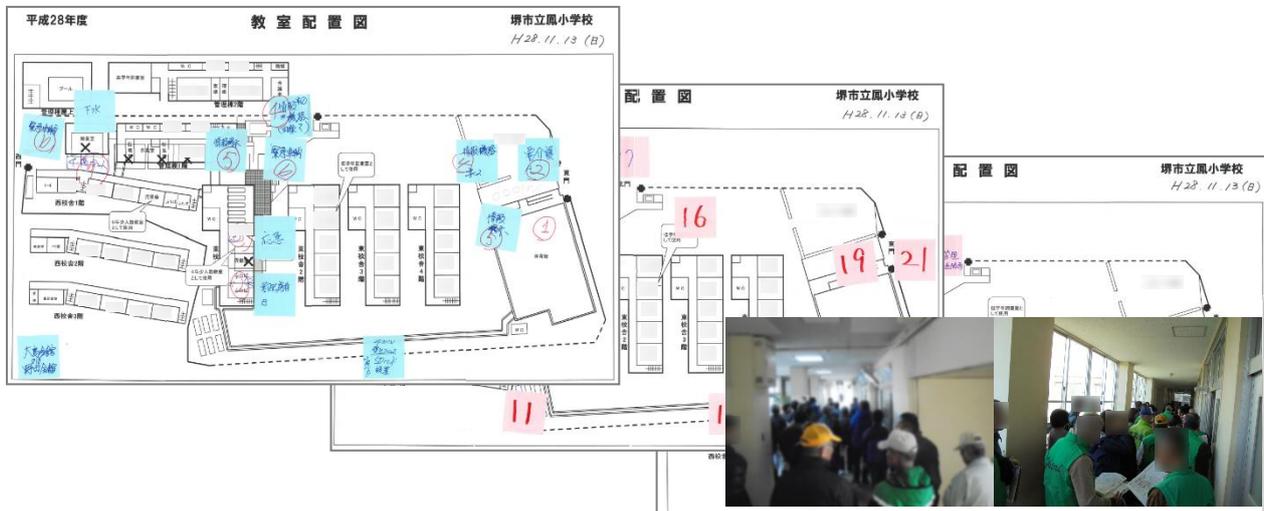
学校との連携・協力の事例



八上校区学校施設歩き（八上小学校内）



鳳南校区学校施設歩き（鳳中学校内）



鳳校区学校施設歩き結果（鳳小学校内）

ワン
ポイント

- ◇ 地域行事や見回りなど学校と地域の日頃からのつながりを大切にしましょう。
- ◇ 学校では年間行事が決められています。実施できる時期、参加可能な生徒数を学校とよく話し合い、無理のない活動をしましょう。
- ◇ 学校の避難訓練を活用してみましょう。
- ◇ 連携・協力体制や話し合いの内容を記録しておきましょう。学校や地域の担当者が交代するときに、引き継ぎが円滑になります。

⑦医療・福祉機関、企業等と連携・協力する

- 地域の結び付きを強化する取組です。

・(例) 福祉避難所訓練(御池台校区)、訓練への企業の参加(錦西校区、鳳校区、三宝校区)等

1	対象者	<input type="checkbox"/> 医療・福祉機関、企業 <input type="checkbox"/> 自主防災組織の役員 <input type="checkbox"/> 地域住民
2	準備するもの	<input type="checkbox"/> 協定書(作成例)
3	実施ポイント	地域防災力を向上し、災害時の活動を円滑にするためにも“地域の結び付き”を強化することが大切です。近隣の医療・福祉専門機関や企業と連携・協力することで、専門知識の学習や保有する物資・機材の提供などが期待できます。

手順

ステップ1 連携・協力の目的を決めます

- 自主防災組織の役員同士などで、自主防災組織だけでは難しい活動など、“どのようなことに連携・協力が必要か”十分に話し合い、目的を決めます。

ステップ2 連携・協力相手と連携・協力方法を検討します

- 役員同士の話し合いの結果をもとに、“誰とどのように連携・協力したいか”連携・協力相手の関係機関と方法を検討します。

ステップ3 連携・協力に向けた話し合いを重ねます

- 連携・協力目的を相手にきちんと理解してもらい、お互いの負担にならないよう、連携・協力していくための条件や役割分担を話し合います。

ステップ4 連携・協力体制についてまとめます

- 話し合いにより連携・協力体制を決めたら、内容を文書にまとめ、お互いに保管します。
- 文書にしておくことで担当者が代わっても活動を円滑に進めることができます。

ステップ5 連携・協力して、訓練などを実施します

- 災害時にどのような活動ができるか、連携・協力体制を確認するため、防災訓練などを実施します。
- 防災訓練の継続実施により、連携・協力体制がより円滑なものとなります。

医療・福祉機関、企業等との連携事例



地域会館を福祉避難所に



介護用の椅子が数脚



既存セラピーマットを活用



パーティションで間仕切り



排泄物処理専用袋（消臭施工有）



地域会館の備蓄品
（食料、生活用品、衛生用品など）

御池台校区における福祉避難所の防災訓練（御池台地域会館）

医療・福祉機関、企業等との連携事例

三宝校区内における医療・福祉機関、企業、自主防災組織、地域住民等とともに避難訓練の一貫として、広域避難地や津波避難ビルの確認、実際に浅香山まで避難する場合の距離の体験などを、地域ぐるみでまち歩き訓練を開催。結果は、校区カルテ等に追加し、今後の防災活動の検討材料としています。三宝校区のまち歩き事例（事-6 ㊦）を参照ください

医療・福祉機関、企業等との連携事例

仙台市宮城野区福住町町内会（約 650 世帯,約 1500 名）：

全国の町内会や民間会社と「災害時相互協力協定」を締結。

協定の内容は 1 項目で、「災害が起きたらできるだけ支援・協力を行う」というもの。

実際に、東日本大震災の 4 日後には、米、水、野菜、果物が協定先の関係者から直接手渡しされた。

地域内の各種施設や企業との連携協定

神奈川区 子安通三丁目自治会

子安通三丁目自治会では、地元の「企業」や「病院」などとそれぞれ協定を結び、いざという時の備えを進めています。協定以外にも、近隣の施設や事業所と災害時にお互いに助け合える協力関係を、防災フェア（P14 事例 1 参照）を通じて築いています。

協定や協力関係のある施設・事業所など

- ・病院 ～要支援者（高齢者・乳幼児）についての災害協定
病院の防災訓練に参加
- ・飲料メーカー ～災害時に飲料水を提供してもらう協定
- ・工場 ～災害時に体育館を避難所として提供してもらう協定
- ・燃料店 ～災害時の炊き出しの燃料として、プロパンガスを提供してもらう協定
- ・保育園 ～防災フェア開催時に、防災紙芝居をやってもらう
- ・整骨院 ～防災フェア開催時に、避難所生活で必要となる「血行を良くするマッサージ」を実演してもらう
- ・マンション ～津波の際の避難場所を提供する協定

資料：「ヨコハマの『減災』アイデア集」横浜市危機管理室

ワンポイント

- ◇ 連携・協力する相手に自主防災活動の重要性を理解してもらいます。そのためには、根気よく話し合いを進めることが大切です。
- ◇ 連携・協力できることには限りがあります。お互いの負担にならないようにしましょう。
- ◇ 活動が継続できるようになったら、連携・協力内容をまとめた文書を協定書として保管しておきましょう。
- ◇ 協定書を作った後は調印式などを実施し、協定を締結したことを地域に周知しましょう。

取組メニュー3 防災意識や知識を広める

①防災について話し合う機会を設ける

- 防災に関する簡単な話し合いをはじめ、関係者相互の連絡・交流、地域の防災に関する問題解決を図るための取組です。
 - ・(例) 協議会等

1	対象者	<input type="checkbox"/> 自主防災組織の役員 <input type="checkbox"/> 地域住民
2	必要なもの	<input type="checkbox"/> テーマ(話題) <input type="checkbox"/> テーマに応じた資料
3	実施ポイント	役員同士や地域のちょっとした集まりの中で“防災や災害について思うこと”など、簡単な意見交換を行うことで、より地域住民の求めるテーマに沿った活動へとつながります。

手順

ステップ1 話し合いたいテーマを決めます

- テーマや日時を決め、参加者に声掛けを行います。町内会の集まりなどに合わせて行うことも有効です。
- 防災は、“地域づくり”の一つです。様々なテーマをもとに話し合うことで、地域防災力の向上につながります。
- 話し合いテーマの例：災害時に有効な連絡方法、連絡網や避難経路の見直し、避難情報の種類や収集方法に関する勉強など

ステップ2 必要に応じて資料などを準備します

- テーマに沿った資料や映像などが必要な場合は、区役所自治推進課や消防署などに相談してみましょう。
- 災害についてまとめた冊子や、災害発生時の映像などを借りることができます。

ステップ3 話し合いを実施します

- 決められたテーマに沿って、話し合いましょう。
- 話し合いで挙げられた意見を記録することで、今後の活動の進め方の参考となります。

地域のニーズに合った防災学習会

平成28年度の県政出前講座を紹介します。

受講団体：安芸市井ノ口
松原地区自主防災会 25名

今回は地区の自主防災会の防災学習会としての出前講座でした。松原地区は津波の心配がない地区のため、住宅の耐震化や家具の固定等の揺れの対策の重要性を主に講座を行いました。自分たちで命と財産を守る覚悟の重要性については、皆さん特に真剣に聞き入っていました。

防災会会長からは、「住民による避難所の運営について、自主防メンバーの能力向上を目的として本年から活動している。」との話がありました。



防災学習会の様子

※NPO法人 地域の安全を図る会
ホームページより引用

資料：「自主防災活動事例集」高知県,平成 29 年 3 月

エコノミークラス症候群の予防のために

○ エコノミークラス症候群とは

食事や水分を十分に取らない状態で、車などの狭い座席に長時間座っていて足を動かさないと、血行不良が起こり血液が固まりやすくなります。その結果、血の固まり(血栓)が血管の中を流れ、肺に詰まって肺塞栓などを誘発する恐れがあります。

○ 予防のために心掛けると良いこと

予防のためには、

- ① ときどき、軽い体操やストレッチ運動を行う
 - ② 十分にこまめに水分を取る
 - ③ アルコールを控える。できれば禁煙する
 - ④ ゆったりとした服装をし、ベルトをきつく締めない
 - ⑤ かかとの上げ下ろし運動をしたりふくらはぎを軽くもんだりする
 - ⑥ 眠るときは足をあげる
- などを行いましょう。

○ 予防のための足の運動



御池台校区の避難所運営訓練で活用した資料

(エコノミー症候群の予防：厚生労働省リーフレット)

- ◇ 自主防災組織の役員や、防災に関心の高い人同士で集まり、自由に意見交換を行ってみましょう。

②ワークショップ*を行う

- 地域にどんな大規模災害のおそれがあるかを知るとともに、各個人の的確な避難行動、避難所運営における課題認識や知識等を育んでもらうことを目的とした取組です。
※講師や進行役等の話を参加者が一方的に聞くのではなく、参加者自身が討論に加わったり、体を使って体験したりするなど、参加体験型、双方向性のグループ学習のこと。
- ・(例) 各校区役員による意見交換会、校区ワークショップ等

1	対象者	<input type="checkbox"/> 自主防災組織の役員 <input type="checkbox"/> 小・中学校 <input type="checkbox"/> 地域内企業、事業所
2	準備するもの	<input type="checkbox"/> 自主防災組織体制図 <input type="checkbox"/> 活動記録資料 <input type="checkbox"/> 堺市区別防災マップ <input type="checkbox"/> 防災ガイドブック
3	実施ポイント	大規模災害発災時の防災対応のイメージを共有するため、地域で起こり得る災害リスクを想定するとともに、平常時・災害時における役割分担やマニュアル作成について、意見交換を行います。

手順

ステップ1 地域で起こり得る災害を想定し、テーマを決めます

- 堺市区別防災マップや防災ガイドブックなどを用いて、起こり得る災害を想定し、ワークショップのテーマ(例: 避難所運営における課題抽出など)を決めます。

ステップ2 地域内で対応できることや課題などを話し合います

- テーマに基づき、平常時や災害時に、地域で対応できることや課題を、各関係機関のメンバーなどで話し合います。

ステップ3 役割分担やマニュアル作成について話し合います

- 自主防災組織内での平常時、災害時の役割分担やマニュアルを作っておく必要がある項目について話し合います。
- ワークショップの結果を記録することで、マニュアル作成等の参考となります。

事例

ワークショップの事例

本日のワークショップの流れ		【発災後～避難所到着まで】			
内容	所要時間	時系列	実施事項	課題	資源
1. 第1回ワークショップの振り返り	5分	揺れる前から	① 命を守る行動、情報収集	【自助】 緊急地震速報の入手方法 情報収集手続の確認	スマートフォン 電池式ラジオ
①各班の課題抽出結果 ②全体のまとめ(図解)		家を出るまで	② 通電火災の防止 ③ 避難経路・避難場所の確認	家具固定、耐震化、就職場所 家族の安否確認	耐震診断 家族
2. 第2回ワークショップで実施すべき事項	5分	家を出てから	① 一時避難所での安否確認	【自助】 避難経路の安全確認 状況の把握・共有・発信 持出品の中身 避難場所の安全確認	避難場所 (寺・事業所・公共施設)
3. 避難所到着までに実施すべきこと	10分	避難所到着まで	② 救出・救助 ③ 初期消火 ④ 情報収集	【共助】 ご近所の安否確認方法 在宅避難者の確認はたれが? 誰が救出するのか? 地域での火災の影響は? 消火活動はたれが?	一時避難所 共助による救出救助 地域のボランティア等 自主防災組織 要支援者名簿
4. 避難所運営マニュアル策定に向けたワークショップ	60分				
①各班で実施すべき事項の検討と調整①15分 ②各班で実施すべき事項の検討と調整②15分 ③各班まとめ 10分 ④各班発表(各班×2～3分) 20分					
5. 「●●校区避難所運営マニュアル策定」について	10分				
合計	約90分				

資料: 堺市避難所運営ワークショップ(平成27年度)

(錦西、三宝、金岡、西陶器、登美丘西、鳳、鳳南、新檜尾台、御池台、八上校区で実施)

各校区内の幼稚園、小・中・高等学校、企業、消防協力事業所、福祉・医療施設や、地域内関係団体(P T A、青年団等)、行政からは、災害地区班員、保健センター、社会福祉協議会、区役所、危機管理室が参加し意見交換。

③防災講座や勉強会を開催する機会を設ける

- 講師を依頼し、講演会を行う取組です。

・(例) 講演会(南区、錦西校区)等

1	対象者	<input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 自主防災組織の役員
2	準備するもの	<input type="checkbox"/> 防災講座・講演会の時間割 <input type="checkbox"/> 開催案内チラシ <input type="checkbox"/> 参加者への配布資料 <input type="checkbox"/> 実施に必要な資機材(例:プロジェクター等)
3	実施ポイント	地域にあったテーマを決め、有識者や防災リーダーなどに講師を依頼し、講演会を開催しましょう。住民にわかりやすい講演を行うことで、防災意識が向上します。

手順

ステップ1 テーマを決め、講師を依頼します

- 地域で起こり得る災害、アンケートなどから、講座や講演会のテーマと大まかな日程を決め、講師を依頼します(例:区役所の出前講座など)。

ステップ2 時間割を作ります

- 日程と会場を確定し、開催時期、当日の時間配分、役割分担を決め、時間割を作ります。

ステップ3 実施に向けて準備します

- 必要な資機材の調達、開催案内チラシの作成・配布など、実施に向けて準備します。

ステップ4 講座・講演会を開催します

- 作った時間割に沿って、講演会を開催します。

事例

防災講座や勉強会等の事例

□ 検討テーマ

- ① 地域には、どんな災害が発生する可能性があるか。
身近な危険場所---住宅地図に記入
- ② あなたは、どこで災害に遭遇すると思いますか。
- ③ その災害がいつ起こると思っていますか。
- ④ 災害(大地震)時に、この避難所に何人ぐらい避難してくると思いますか。
- ⑤ 避難所でできる対応(サービス)は、なにか。逆に避難者が望むものは何か。
目的別部屋割り 体育館使用のレイアウト 一般教室のレイアウト
部屋割りの方法?

- ⑥ 自宅避難者への対応
- ⑦ 帰宅困難者・通行人・外国人への対応
- ⑧ 初動対策と避難所運営

八上校区協議会での
確認事項の事例→

←鳳南校区協議会での
検討テーマ

地区自治会が主体的にやらなければならない事

- ① 地区住民の安否確認・避難者の所在地確認は地区の第一義的任務です
- ② 地区内の救援・救護活動は地区の判断と行動で進めます。なお応援が必要な場合は、校区対策本部に連絡・関係機関と連絡調整のうえ対応する。
- ③ 地区内避難者の食糧確保・炊き出しは地区内で実施する。(対策本部も支援)
- ④ 災害時は犯罪が多く発生します。窃盗団など他所の人の出入りについて、監視の目を強める必要があります。
- ⑤ 流言飛語などで混乱することがあります。正しい情報の周知は欠かせません

自主防災組織指導者講習会の日程・内容（予定）

講座1	： 6月17日（土曜）	防災講座、自主防災組織活動事例
講座2	： 6月17日（土曜）	避難所資機材操作要領
講座3	： 7月15日（土曜）	応急手当上級救命講習（前期）
講座4	： 8月19日（土曜）	応急手当上級救命講習（後期）
講座5	： 9月24日（日曜）	市総合防災訓練への参加
講座6	： 10月14日（土曜）	防災講演「自主防災会のリーダーとして」
講座7	： 11月18日（土曜）	図上訓練
自主講座：居住地域の避難所防災資機材取扱い研修		

資料：鶴岡市ホームページ

<http://www.city.tsuruoka.lg.jp/anzen/bousaipage/bousai012017013114.html>

2. 市民防災まちづくり学校

（東京都 国分寺市）

昭和 53 年から続く「市民防災まちづくり学校」

国分寺市が行う市民防災まちづくり学校は、昭和 53 年に開講して以来、今年度で 36 回目を迎えた。これまで累計 1,714 人の市民が受講し、1,289 人が修了した。講座は、行政の防災体制、インフラ、地域防災と男女平等参画といった座学に加え、救命講習やロープワーク、三角巾などの実技、HUG（避難所運営ゲーム）やまちあるきを通してのグループワーク、避難所における高齢者や障害者体験等多岐にわたる。また、受講者と既に学校を修了した地域住民とが交流をしたり、各地域での活動について先輩防災リーダーから経験やノウハウを話していただく講座を設けたりすることで受講者が修了後、スムーズに地域の輪に入り、活動することができるようにしている。



■市民防災まちづくり学校の講座の様子

資料：「自主防災組織の手引き」消防庁,平成 29 年 3 月

ワンポイント

- ◇ 防災意識の啓発のためには、講演会のテーマを“誰にどのようなことを聞いてもらいたいか”という視点から検討することも有効です。
- ◇ 講演会は定期的を開催し、テーマを変えながら広く防災意識を啓発していきましょう。
- ◇ 講座・講演会時にはアンケートを併せて行うことで、今後の自主防災活動に役立つ意見を収集できます。

取組メニュー4 避難誘導を考える

①防災マップを作る

- 地域特有の情報を地図にまとめ、独自のマップを作る取組です。
 - ・(例) 防災マップづくり(金岡校区、新檜尾台校区、御池台校区、鳳校区、登美丘西校区等)

1	対象者	<input type="checkbox"/> 自主防災組織の役員 <input type="checkbox"/> 地域住民
2	準備するもの	<input type="checkbox"/> 地域の地図 <input type="checkbox"/> マジック <input type="checkbox"/> 様式5(防災マップ作成様式) <input type="checkbox"/> パソコン・プリンタ <input type="checkbox"/> 堺市区別防災マップなど
3	実施ポイント	地域内の避難行動上気になる箇所や避難に使いたい場所など、地域特有の情報を地図にまとめ、独自の防災マップを作りましょう。地域全体で情報を共有し、定期的に見直すことで防災意識だけでなく地域防災力の向上につながります。

手順

ステップ1 地図上にまち歩きや訓練などで分かった地域の情報を整理します

- 作成する防災マップに掲載する危険箇所、施設などの情報を整理します。堺市区別防災マップや防災ガイドブックなども参考にしてみましょう。
- 主な掲載項目は、堺市区別防災マップに掲載している災害危険箇所、まち歩きなどで見つけた地域の危険箇所、避難所や避難経路、災害時に役立つ施設などが考えられます。
- 「まち歩きを行う」(取組メニュー1-①)(事-2 ㉞)、「災害図上訓練を行う」(取組メニュー1-②)(事-8 ㉞)の項目を参考にしてください。

ステップ2 作ったマップを周知し、活用します

- 作ったマップは、掲示板などを利用して地域に周知しましょう。また、避難訓練などで活用してみましょう。

ステップ3 マップを見直します

- 作成したマップは、定期的なまち歩きや町内パトロールなどに活用し、情報を更新していきましょう。

- 御池台校区で作成した「災害避難マニュアル」(防災マップ付き)。地域で話し合って作成した避難行動手順(下図1枚目)を、校区カルテに反映した取組

御池台校区「災害避難マニュアル」

大災害に備えて、地域防災力を高めましょう!

自助 近助 共助

● 大災害時には、自分の命・安全は自分を守る(自助)、日頃からつながりを大切に(近助)、地域の安全は自分たちで守る(共助)という「自助・近助・共助」の防災意識が大切です。

● 御池台校区では、御池台小学校体育館が震災時の避難所に指定されていますが、まず各自治会で定められた一時避難所へ避難し、安否確認を実施することになっています。在宅避難を含め、あらかじめ**避難行動の流れを理解**しておきましょう。

2 近隣の安全確保

✓ 班・隣組など小さなコミュニティごとに実施しましょう。

✓ 住民同士で隣家への声掛けを行います。この際、単身の高齢世帯など一人で家具に挟まれ動くことのできない住民がいることを想定し、班・隣組で確認し合えないよう各自役割を分担し、1軒1軒調査しましょう。

✓ 全員の安否を確認する際、火災発生要因がないか? (通常火災を起こさせないようブレーカーを遮断したか?) などを確認しましょう。

✓ テレビやラジオ、メールなどで正確な情報(災害状況等)を入手しましょう。

1 自身の安全確保

● 強い揺れを感じた時の行動

- ✓ 慌てず落ち着いて危険な場所(高い家具、ガラス戸近く)から離れましょう。
- ✓ 身近にある物で頭を保護し、丈夫なテーブルなどの下に身をかくしましょう。
- ✓ 火が身近にあれば消し、離れた場所であれば無理に火を消そうとせず、揺れがおさまるまで近付かないようにしましょう (都市ガスは震度4以上で自動的に遮断されます)。
- ✓ 高齢住宅の高層階は、長時間揺れる場合があります。

● 揺れがおさまったからの行動

- ✓ 火を出さないようにしましょう!
- ✓ ガスの元栓やブレーカーの遮断を確認しましょう。
- ✓ 家族の安否を確認しましょう。外出家族との連絡には「災害用伝言ダイヤル」等の災害時に利用できるサービスを活用できます。

【災害時の連絡方法】

【災害用伝言ダイヤル171】
 音声情報を録音・再生できます。
 【例1】 →

【災害用伝言板】 被災者が自分の安否情報等を登録。登録情報は携帯電話・PC等で再生できます。
 【例1】 携帯電話事業者等の公式サイト「災害用伝言板」にアクセス登録・再生

3 一時(いつとき)避難所集合

✓ 避難を勧誘する時は、非常持ち出し品を携帯し戸締りの後、徒歩で地域の一時避難場所に向かいます。避難をする際、隣家へ声掛けを行います。

【×モロ】

4 安否確認

✓ 御池台校区では、一時避難場所において専用の「安否確認チェックリスト」に従って安否確認を行います。安否確認の後、避難所の収容人数に限りがあるため、指定避難所避難、または校区の福祉避難所(地域会館)避難のどちらかに避難誘導すべきか人数調整を行います。避難誘導の対象者以外の方は、在宅避難を行います。

5 避難誘導、指定避難所・校区の福祉避難所(地域会館)避難

✓ 一時避難場所での人数調整の後、指定避難所避難、または校区の福祉避難所(地域会館)避難のどちらかに向けて、各戸ごとに集団避難を行います。

6 在宅避難

✓ 避難誘導の後、指定避難所や校区の福祉避難所(地域会館)への避難が返って心的ストレスの原因になり、体力の低下につながったり、感染症になったりする可能性も否めない状況であるため、家庭内避難や火災の影響がなければ、無理に避難することなく、自宅に備蓄用品を備え、在宅避難することも得策と言えます。

✓ 高齢者や体の不自由な方が、避難することができずに在宅避難を余儀なくされている場合もあるため、近助・共助の助けを大切にしましょう。

御池台校区「地図とお役立ち情報」

大災害に備えて、地域防災力を高めましょう!

自助 近助 共助

防災マップ

私たちの校区には、いろいろな防災資源があります。

● 2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、28、29、30、31、32、33、34、35、36、37、38、39、40、41、42、43、44、45、46、47、48、49、50、51、52、53、54、55、56、57、58、59、60、61、62、63、64、65、66、67、68、69、70、71、72、73、74、75、76、77、78、79、80、81、82、83、84、85、86、87、88、89、90、91、92、93、94、95、96、97、98、99、100

自分の命・安全は自分を守る!

● 備蓄の方法

- 災害時には最大1週間分程度の備蓄が必要になります。
- かなりの量になるため、缶詰やレトルト食品など、節減できる食材や飲み物を多めに買って置き、消費した分だけ買い足す「ローリングストック」(回転備蓄)がおすすめです。
- 災害時に使うものを、日頃から備蓄するようにお掛けましょう。

必要ものを準備する
 (これだけあれば必要なもの(一次持ち出し品))

命に関わるものは数日分、それ以外は1日分

お金
現金
キャッシュカード
保険証(写)

食糧
非常食
飲料水
粉ミルク
哺乳瓶

情報
非常ラジオ
携帯電話(充電済)
懐中電筒
懐中電筒
懐中電筒

衛生等にために
消毒薬
マスク
手拭き紙
手拭き紙

その他
タオル
洗面用具
ティッシュ
トイレットペーパー
生理用品
薬
お薬手帳など

靴
靴
靴
靴

その他
懐中電筒
非常ラジオ
携帯電話
懐中電筒
懐中電筒

校区内の各世帯に配布

資料：御池台校区

防災マップの作成事例



西陶器校区防災マップ (例)



金岡校区防災マップ (例)

防災マップに必要な地図の入手

堺市 SAKAI CITY

堺市別防災マップについて(平成29年3月改定版)

市長の皆さんに各区域の災害特性を知っていただき、日頃の備えに活用していただくために、平成27年3月に発行した「区別防災マップ」を、次のとおり改定しました。

- 国道経管理河川の洪水
 - 平成28年5月に見直し大和川の治水想定の変更及び新たに家屋倒壊等危険想定区域に関する情報を追加。
- 土砂災害
 - 平成28年9月に府が行った土砂災害警戒区域や特別警戒区域の指定に関する情報を更新。
 - 避難勧告等に関するガイドラインの改定による避難情報の名称の変更。

同マップを参考に、さまざまな災害リスクを確認し、災害に備えた避難場所や集合場所などを、各家庭や各事業所で話し合い、災害発生時の避難計画や防災訓練にご活用ください。

堺市別防災マップ(平成29年3月改定版)

- 01 表紙: 防災マップの活用方法 (PDF: 1.603KB)
- 02 防災情報ととまむき行動 (PDF: 3.901KB)
- 03 内水ハザードマップ
- 04 土砂災害・洪水ハザードマップ
- 05 想定される震度・地震時の避難行動の目安 (PDF: 1.499KB)
- 06 津波ハザードマップ (PDF: 3.670KB)

市では、東日本大震災の津波被害の教訓を踏まえ、南海トラフ巨大地震に伴う最大クラスの津波から市民等の生命や安全を守るため、様々な津波避難対策に取り組んでいます。

一冊版はこちら(津波避難対策について)

- 07 重要施設・避難行動の身元方と事前の備え・防災情報と伝達方法・地域での話し合い (PDF: 1.899KB)

※堺市ホームページ「e-地図帳」ハザードマップページ参照 ↓

堺市 e-地図帳 堺市 市役所公開型地理情報システム

堺市都市計画情報 ハザードマップ 文化財情報 固定資産税評価情報 認定路線情報 下水道参考情報 宅地造成工程図区域 図外広告物情報

検索

地図から探す

検索結果はここから表示されます。

住所から探す

堺市役所 〒590-0078 堺市東区東五丁目3番1号

Copyright © Sakai City. All Rights Reserved.

※堺市ホームページ ↑ 区別防災マップ掲載ページ参照

防災マップの作成事例

大丸地区 わたしの避難行動(マイマップ)

マイマップの使い方

- マイマップは、自分の住んでいる地域、200メートル以内の範囲で、自分の住んでいる地域を指定して作成します。
- マイマップを作成すると、自分の住んでいる地域、200メートル以内の範囲で、自分の住んでいる地域を指定して作成します。

誰に声がかかる? 誰と避難する?

緊急時、近隣住民の災害を誰に連絡する?

稲城市からの避難情報の受け方

0800-900-9991

資料:「災害・避難カード事例集 平成28年度改訂版」内閣府(防災担当)

ワンポイント

- ❖ 最初から完璧に作る必要はありません。みんなで知恵を出し合い、手書きのものから始めましょう。作ったマップを定期的に見直し、完成度を高めていきましょう。
- ❖ 防災マップの紙面には、災害への備えや防災情報の入手方法などを記載し、「避難マニュアル」としても活用してみましょう。
- ❖ パソコンで作る場合は、文字の大きさを変えたり、イラストを用いた説明を入れたりすると見やすくなります。防災マップの大きさは、家庭の壁や冷蔵庫に貼ることができるよう、おおむねA4サイズ(またはA3サイズ)が望ましいです。

②避難所運営ゲーム（HUG）を行う

- 避難所運営ゲーム（HUG）とは、静岡県が図上訓練の一種として開発した避難所運営ゲームで、対象者が避難所運営を主体的に考えるための学習方法です。

・（例）避難所運営ゲーム（HUG）等

1	対象者	<input type="checkbox"/> 自主防災組織の役員 <input type="checkbox"/> 地域住民
2	準備するもの	<input type="checkbox"/> HUGカード <input type="checkbox"/> （仮想避難所）平面図 <input type="checkbox"/> 付箋紙 <input type="checkbox"/> マジック など
3	実施ポイント	避難所運営を、関係者間で考えるためのゲームです。避難者の年齢、性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、平面図（避難所や学校施設等の配置図）にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験します。

手順

ステップ1 ゲームの条件を決めます

- 堺市区別防災マップや防災ガイドブックなどを用いて、地域で起こり得る災害や、避難所開設時の状況、その日の天気など、ゲームを進めていく上での条件を事前に決めます。また、ゲーム時間も決めておきましょう。

ステップ2 ゲームを実施します

- 全体の進行係（読み上げ係）はカードを次々に読み上げ、参加者は避難カードを避難所平面図に配置していきます。基本的な進め方は、次のとおりです。

①読み上げ係を決める→②平面図を広げる→③ゲームを説明する→④次々とカードを読み上げる→⑤次々とカードを配置する→⑥カードを全て配置したら終了



資料：静岡県ホームページ

- カードはなるべく早口で読み、実際の避難所の混乱を想像しながら進めましょう。

ステップ3 意見交換を行います

- ゲームが終了したら、避難所平面図上のカードの配置を再確認し、「どのような理由でこのような配置になったのか」意見をまとめます。まとめた意見をもとに、グループ発表を行うなど、意見交換します。

ワンポイント

- ◇ カードを読み上げるときは、プレイヤーが前のカードを配置し終わる前に次のカードを読み上げるのがポイントです。実際の災害時では避難者は待ってくれません。
- ◇ 明確な正解はありません。実際に災害が起きた時によりよい対応ができるよう、様々な意見を出し合ひましょう。
- ◇ カードの内容に、堺市区別防災マップや防災ガイドブックなどを参考にして、地域で起こり得る事象を取り入れると、より実践的な訓練となります。

HUGを取り入れた避難所運営マニュアル作成

大規模災害に備えて、地域住民による避難所運営を目指して検討会を実施し、避難所運営マニュアルを作成しました。マニュアル作成の最初と最後には**HUG（避難所運営ゲーム）**を実施し、マニュアルの検討会も複数回開催することで、避難所運営の課題を共有することができました。また、マニュアル作成後も訓練を実施して実用への改良に取り組んでいます。

誰が見てもわかりやすい文章で地域全体の意見を集約したマニュアルとすることに非常に苦労しました。

これからは、地域へのさらなる周知とマニュアルを活用した実践的な訓練を繰り返し実施し、その結果を反映したマニュアルの改良を行う予定です。



HUG（避難所運営ゲーム）の実施



検討会の実施

■日章地区自主防災協議会

設立：平成24年度 世帯数：2,058世帯 人口：3,874人

南国市危機管理課

資料：「自主防災活動事例集」高知県、平成29年3月

第1班の検討結果

【体育館の利用方針】

○はじめに、地区（自治会）毎にエリアを分け、動線の確保と受付を設ける

⇒体育館を利用する際に、最初に決めないと後の混乱の原因となる

○高齢者・足の不自由な方をトイレの近くに配置する

⇒地区毎の区割りとは別に設ける

○体育館内では、動物・タバコは禁止！

⇒動物アレルギーの方への配慮と衛生面の観点から

避難所運営の最も重要な課題

●保健・衛生面への配慮

⇒負傷者、動物、土足、トイレの使い方等配慮が必要

●事前に、運営組織を作って日頃から訓練を行う

⇒地域の専門職に就いている人を交えて、運営組織をつくりたい

●市役所との連絡体制の確保

⇒特に災害時は、医療品に関して緊急を要する

第1班



●30分の1の体育館の地図を使って利用方針について検討しました



●体育館の他に、一般教室についての使い方にも議論が及びました

資料：静岡県「避難所 HUG 参考資料」

<<http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/e-quakes/manabu/hinanjyo-hug/shiryuu.html>>

③要支援者の安否確認方法を考える

- 災害時に支援を必要としている人の安否確認方法を考える取組です。

・(例) 福祉避難所訓練(御池台校区)等

1	対象者	<input type="checkbox"/> 自主防災組織の役員 <input type="checkbox"/> 福祉避難所関係の役員
2	準備するもの	<input type="checkbox"/> 安否確認ルール(現行ルールがある場合)
3	実施ポイント	災害時には、多種多様な人が支援を必要としています。どのような人がどのような支援を必要とし、地域内でどのように支援していくことが良いか、その方法を考えてみましょう。

手順

ステップ1 支援が必要な人を想定します

- お住まいの地域に“どのような人が住み、どの年代または年齢層が多いか”など、住民の特徴を把握し、災害が起きたら、“どのような人に支援が必要となるか”地域で話し合います。
- 支援が必要な人とは、高齢者、乳幼児、妊産婦、外国人、旅行者、障がい者などが考えられます。

ステップ2 支援について学びます

- 支援方法を考えるには、支援を必要とする人の状態や配慮の仕方など、相手を知ることが大切です。
- まずは有識者やアドバイザーなどを呼び、勉強会を行いましょう。

ステップ3 支援方法を考えます

- 勉強会をもとに地域内で“どのような支援ができるか”適切な支援方法を考えます。
- 地域内に、福祉避難所や医療機関などの施設がある場合、災害時の受け入れの想定や対応内容等について、施設管理者との話し合いの場を持ち、災害時の支援体制を考えておきましょう。
- 考えたこと、話し合った内容を、安否確認ルールとして作成し、必要に応じて現行ルールに反映します。

事例

要支援者に配慮した避難訓練の事例

高齢者、障害者に安全、安心な避難訓練の実施

芦屋市アステムD棟自治会 自主防災グループ“だいじょうぶ”隊

芦屋市高浜町にある高層マンション「アステム芦屋D棟」は、65歳以上の世帯が85%と高齢化が進んでいます。また海に近いため、津波発生時に安全な指定避難場所へ行くには1~2km山側に移動する必要があり、高齢者や要支援者が避難することは、困難な状況となっています。

このため、同棟の自治会は津波から無理なく安全に避難できるよう、マンションの7階にある空中公園を一時避難場所としています。同自治会の自主防災組織「自主防災グループ“だいじょうぶ”隊」が中心となって、平成26年1月に高齢者と子どもたちも多数参加して、7階空中公園への避難訓練を実施しました。

資料：「自主防災組織活動手引きと事例」兵庫県

1. 震災時に迅速な安否確認を可能にした「重要支援者名簿」の作成

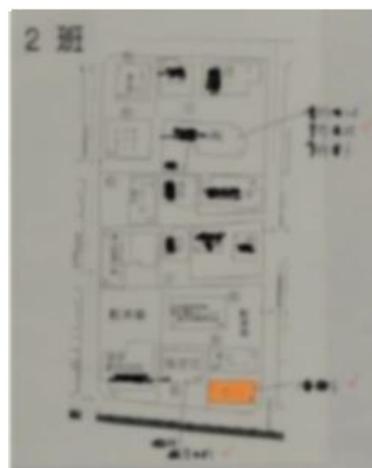
(福住町町内会：宮城県 仙台市)

設立年：平成 15 年
構成員数：約 1,100 人(平成 29 年 3 月現在)

子どもが見てもわかる、地図入りの「重要支援者名簿」

福住町町内会では、災害時には何があってもこの人たちを守るという「重要支援者」を高齢者、障害者等から抽出して位置づけ、地図入りの名簿作成を実施している。地図入りにする理由は、子どもが見ても、支援者の住宅がわかるようにするためである。定期的に民生委員と名簿を照合・更新しており、日常的にも重要支援者宅の見守りを実施している。

東日本大震災発災時、震度 6 強という未曾有の地震に見舞われ、準備していた重要支援者の名簿は、家内が散乱していて用意できなかったが、日頃の見守りや訓練を通じて重要支援者名簿の内容を役員が覚えていたため、避難所である町内会集会所へ向かう途中で重要支援者宅を回り、30 分で集計を済ませることができた。その後、役員と一緒に拡声器を持ち、再度、重要支援者の安否確認を行った。当日の重要支援者は 57 世帯 73 名で、全員無事であった。



■名前入り地図

資料：「自主防災組織の手引き」消防庁,平成 29 年 3 月

ワンポイント

- ◇ 支援にあたっては、専門的な知識を必要とする場合があります。福祉団体などと協力できるようにしておきましょう。
- ◇ 支援の方法に正解はありません。話し合いを重ね、支援する人・される人の両方に無理のない方法を考えましょう。

取組メニュー5 防災訓練を体験する

①自主防災組織が主体となった防災訓練を行う

- 地域の実情に応じて、無理のない訓練を実施し、課題や改善点等を次回の訓練へ活かしていく取組です。

・（例）各校区の防災訓練の実施項目等

1	対象者	<input type="checkbox"/> 自主防災組織の役員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 地域団体・企業
2	準備するもの	<input type="checkbox"/> 防災訓練のシナリオ <input type="checkbox"/> 案内チラシ <input type="checkbox"/> 訓練に必要な資機材 <input type="checkbox"/> 堺市区別防災マップなど
3	実施ポイント	防災訓練は自主防災活動の核となるものです。自主防災組織の活動状況や地域の実情に合わせながら、訓練内容を企画し、無理のない訓練を実施しましょう。 防災訓練は継続して実施することが重要です。訓練の実施記録をまとめ、課題や改善点を抽出し、次回の訓練に活かしていくことが大切です。

手順

ステップ1 災害時の活動項目を確認します

- 様式2（取組チェックシート）をもとに、「できていること」、「できていないこと」を見直し、訓練が必要な項目を洗い出します。

ステップ2 訓練内容を企画します

- 実施項目、堺市区別防災マップや防災ガイドブックなどを参考にした想定災害、日程などを決め、防災訓練のシナリオを作ります。

ステップ3 実施に向けた調整を行います

- 地域住民への実施案内、会場確認、関係機関との役割分担など、実施に向けた調整を行います。

ステップ4 防災訓練を実施します

- シナリオに基づき、防災訓練を実施します。けがや事故のないよう注意しましょう。
- 問題点などがあつた場合は、その都度メモを取り、次の訓練へ反映できるようにします。

ワンポイント

- ◇ 防災訓練をして「課題」や「改善点」を見つけることも、訓練の大きな目的です。
- ◇ 訓練はたくさんの方が参加し、防災に興味を持ってもらうことが大切です。まずは地域住民が参加しやすいものや楽しめるものを企画してみましょう。
- ◇ 防災訓練の企画や実施に向けた調整内容、当日の役割分担などは、記録して残しておきましょう。
- ◇ 活動の記録が“地域版の防災マニュアル”として役立ちます。

防災訓練の事例

・三宝校区の安否確認訓練（平成 28 年度・平成 29 年度）

安否確認方法として、校区カルテに追加した取組。



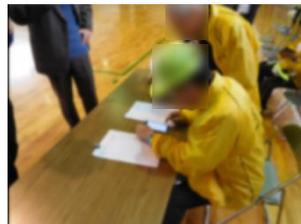
安否確認札の掲示風景



集計紙の内容確認風景



（一時集合場所）集計風景



（避難所）全体集計の風景

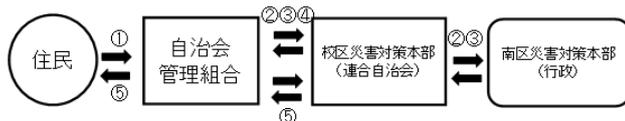
・新檜尾台校区の防災訓練（平成 28 年度）

安否確認・支援物資要求等の訓練

【訓練内容】

- ①住民の安否確認訓練（発災直後から開始します）⇒【校区内の全戸数対象】
- ②安否確認の情報把握訓練
- ③安否確認の情報報告訓練（トランシーブ使用による情報伝達）
- ④支援物資の要求訓練（トランシーブ使用による情報伝達）
*支援物資等リクエストについて

- ⑤支援物資受取及び配給訓練
- ⑥避難所設営訓練（避難所運営委員により本部内に設営）
- ⑦各単位による自主訓練 ⇒ 別途単位より連絡あり



■安否確認訓練

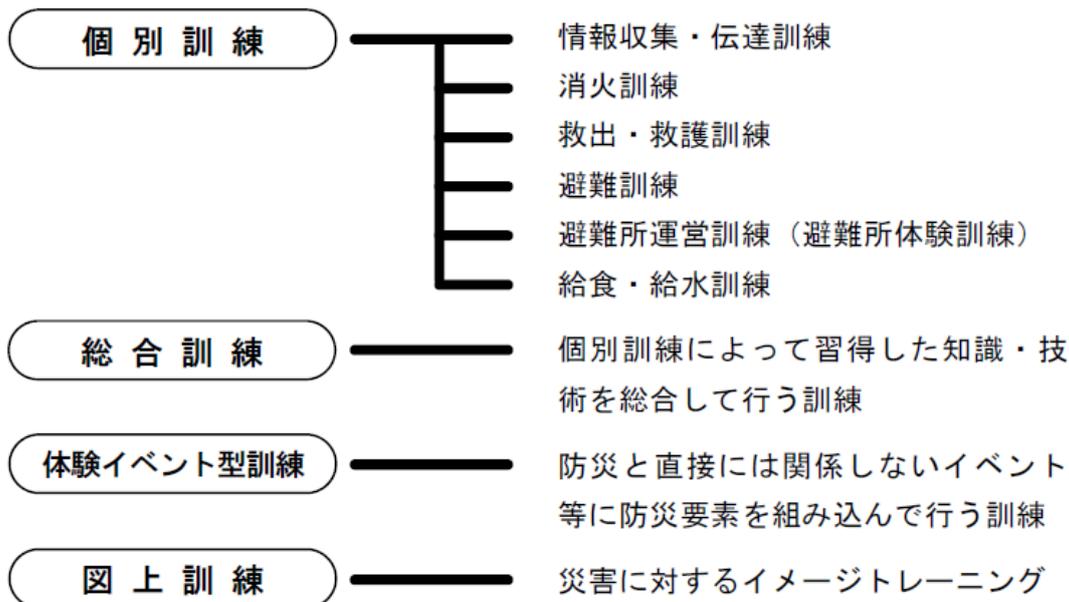
*安否確認の情報把握、情報報告



・登美丘西校区の街角防災訓練（平成 28 年度）

<p>No.1</p> <p>街角防災訓練（安否確認）</p>	<p>No.2</p> <p>一時集合場所（安否確認）</p>	<p>No.3</p> <p>名簿受付訓練（安否確認）</p>
<p>No.4</p> <p>避難所集合</p>	<p>No.5</p> <p>避難所開設訓練</p>	<p>No.6</p> <p>建物安全点検の説明</p>

防災訓練の実施項目



資料：「自主防災組織の手引き」消防庁,平成 29 年 3 月

目的別の主な防災資機材

目的	防災資機材
① 情報収集・伝達用	携帯用無線機、受令機、電池メガホン、携帯用ラジオ、腕章、住宅地図、模造紙、メモ帳、油性マジック(安否・被害状況等、情報収集・提供の際に用いる筆記用具として) 等
② 初期消火用	可搬式動力ポンプ、可搬式散水装置、簡易防火水槽、ホース、スタンドパイプ、格納器具一式、街頭用消火器、防火衣、鳶口、ヘルメット、水バケツ、防火井戸等
③ 水防用	救命ボート、救命胴衣、防水シート、シャベル、ツルハシ、スコップ、ロープ、かけや、くい、土のう袋、ゴム手袋 等
④ 救出用	パール、はしご、のこぎり、スコップ、なた、ジャッキ、ペンチ、ハンマー、ロープ、チェーンソー、エンジンカッター、チェーンブロック、油圧式救助器具、可搬式ウインチ、防煙・防塵マスク 等
⑤ 救護用	担架、救急箱、テント、毛布、シート、簡易ベッド 等
⑥ 避難所・避難用	リヤカー、発電機、警報器具、携帯用投光器、標識板、標旗、強力ライト、簡易(携帯)トイレ、寝袋、組立式シャワー 等
⑦ 給食・給水用	炊飯装置、鍋、こんろ、ガスボンベ、給水タンク、緊急用ろ水装置、飲料用水槽 等
⑧ 訓練・防災教育用	模擬消火訓練装置、放送機器、119 番訓練用装置、組み立て式水槽、煙霧機、視聴覚機器(ビデオ・映写機等)、火災実験装置、訓練用消火器、心肺蘇生用訓練人形、住宅用訓練火災警報器等
⑨ その他	簡易資機材倉庫、ビニールシート、携帯電話機用充電器、除雪機 等

資料：「自主防災組織の手引き」消防庁,平成 29 年 3 月

②安否確認訓練を行う

- 安否確認方法を知らないと、災害時に共助の助け合いがうまくいきません。災害時には日頃と同じような判断をすることがたいへん難しいものです。安否確認体制やルールをあらかじめ決め、訓練することにより、互いの安全を効率的に確認することができるとともに、逃げ遅れている方の迅速な救助につなげるための取組です。

・安否確認訓練の実施項目等

1	対象者	<input type="checkbox"/> 自主防災組織の役員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 地域団体・企業
2	準備するもの	<input type="checkbox"/> 安否確認体制 <input type="checkbox"/> 安否確認方法（札、タオルなど） <input type="checkbox"/> 集計用紙など
3	実施ポイント	安否確認体制は、各班長・単位自治会長などで連絡の流れを決めることが重要です。 また、安否確認方法には、いろいろな方法があるため、地域の実情に合わせた確認方法を決めることが重要です。例えば、「大丈夫です」などを記載した札を使用したり、黄色のタオルを使ったりします。

手順

ステップ1 安否確認体制を決めます

- 各班長・単位自治会長が行う手順を決めます。
- 手順としては、例えば、班長は名簿などにより、各世帯の無事を確認し集計した後、一時集合場所へ集合し、集計結果を単位自治会長に報告、単位自治会長は全体の集計結果をもって、指定避難所へ報告します。

ステップ2 安否確認方法を決めます

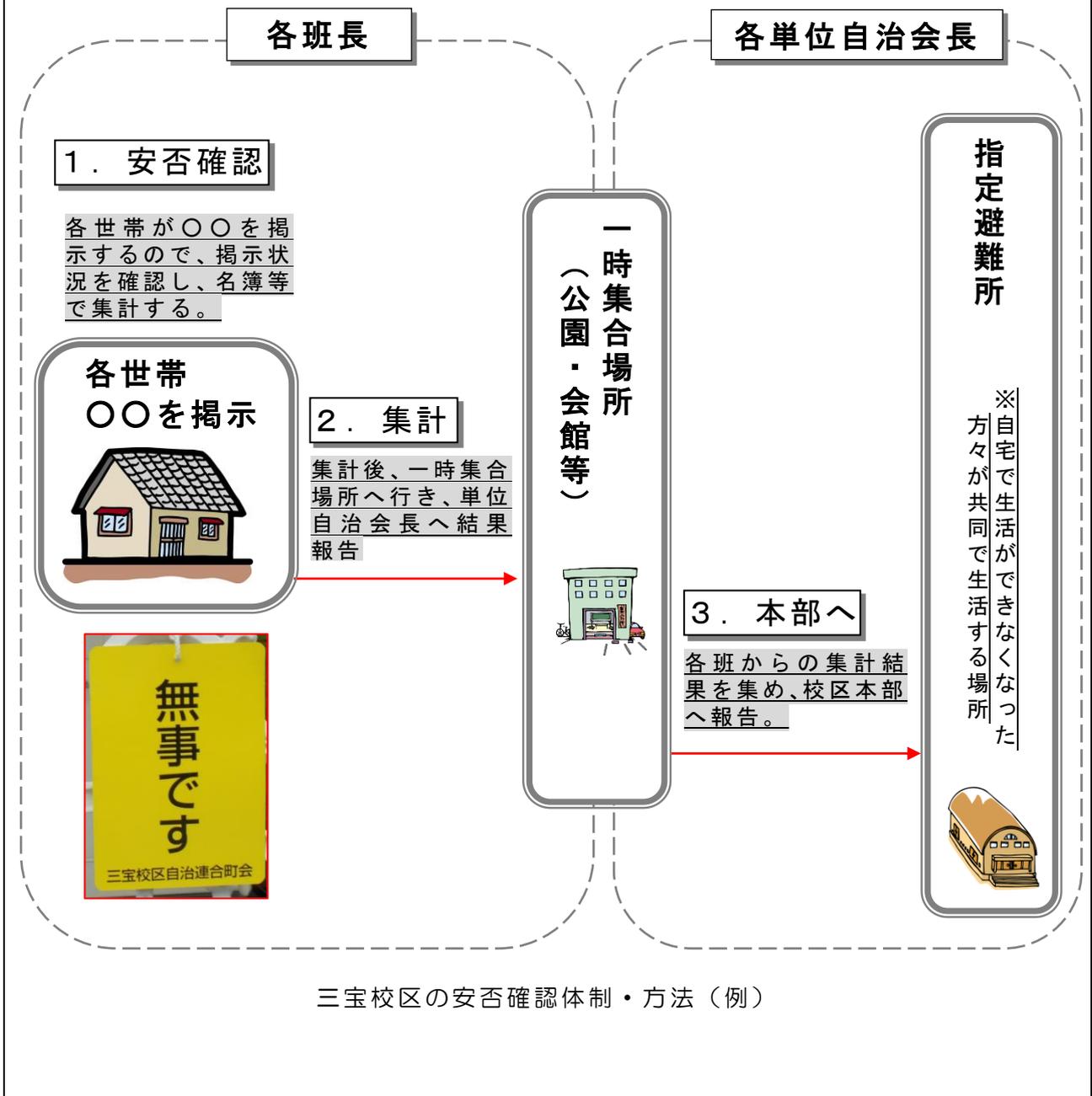
- 安否確認方法について、各世帯が使う共通のモノ（札、タオル等）を決めたりします。地域の実情に合わせて、実施に向けた調整を行います。

ステップ3 安否確認訓練を実施します

- 上記までで決めたルールに基づき、訓練を実施します。けがや事故のないよう注意しましょう。
- 問題点などがあつた場合は、その都度メモを取り、次の訓練へ反映できるようにします。

ワンポイント

- ◇ 安否確認訓練にはたくさんの方が参加し、実際に災害が起きた場合の手順を皆で体感することが重要です。
- ◇ 安否確認訓練は、訓練にかかった所要時間をはかり、関係者間で結果を共有することが大事です。時間短縮や課題解決に向けて、大事な情報の一つになります。



三宝校区の安否確認体制・方法 (例)

③避難所開設訓練を行う

ア 施設の安全点検訓練を行う

- 避難所施設が避難所として使用できる状況かどうかの安全点検訓練を行います。
 - ・施設の安全点検訓練の実施項目

1	対象者	<input type="checkbox"/> 自主防災組織の役員
2	準備するもの	<input type="checkbox"/> 建物被災状況チェックシート（校区避難所運営マニュアルひな形の様式2） <input type="checkbox"/> 施設の鍵 <input type="checkbox"/> ヘルメット <input type="checkbox"/> 懐中電灯（夜間の場合）
3	実施ポイント	安全点検を行う者は、複数で行い、目視を基本とします。 安全面に十分留意し、通れない場所や落下物の危険がある場合、ガス臭い場合などは引き返す必要があります。 あくまで応急的な安全確認を行うための点検であるため、結果を区災害対策本部へ報告し、必要な指示等をあおぐという視点も必要です。

手順

ステップ1 複数の作業人員を確保します

- 安全確認者は、複数の作業人員を指名し、チームを作ります。作業体制は、3名以上が望まれます。

ステップ2 建物被災状況チェックシートを使い、施設の外観を点検します

- 以下の項目をチェックします。
 - （施設周辺：建物）傾き、倒れ込む危険性
 - （施設周辺：道路、グラウンド等）地すべり、がけ崩れ、地割れ、噴砂・液状化
 - （施設：地面）沈下
 - （施設）傾き
 - （施設）外部の柱、壁のひび割れ
 - （施設）外壁タイル、モルタル（装飾のコンクリート）等の落下※なお、チェックの結果、安全でないと判定された場合は、チェックリストに記載された手順に従います。

ステップ3 建物被災状況チェックシートを使い、施設の内部を点検します

- 以下の項目をチェックします。
 - （内部の床）傾き、破損の状況
 - （内部の柱、壁）ひび割れの状況
 - （内部の建具、ドア）破損の状況
 - （内部の天井、照明器具）落下の危険性
 - （ガス漏れ）有無※なお、チェックの結果、安全でないと判定された場合は、チェックリストに記載された手順に従います。
- ワンポイント
- ◇ 平時の施設の状況（柱・壁のひび割れ具合など）を把握しておきましょう。例えば、写真撮影しておくことも有効です。
 - ◇ 安全確認者として、あらかじめ3名以上を確保しておくことで、災害時の迅速な対応が可能となります。

様式2 建物被災状況チェックシート

(鉄筋コンクリート造専用)

このチェックシートによる判断はあくまで臨時的なものであるため、各区災害対策本部へ連絡し、できるだけ早く被災建築物応急危険度判定士による判定を受けてください。

(手順)

- ① 質問1から順番に点検を行い、質問1～6(外部の状況)までで、BまたはCと判断された場合は、建物内に入ることはせず、質問7以降の内部の状況については点検する必要はありません。
- ② 危険と認められる場所については、貼り紙をするなどして立入禁止とします。
- ③ このチェックシートの質問項目に関わらず、建物の状況に不安がある場合は、災害対策本部へ連絡し、被災建築物応急危険度判定士による判定を待ちます。

避難所名: _____
 点検実施者名: _____
 点検実施日時: _____ 月 _____ 日 _____ 時 _____ 分

建物の外から見て、次の質問の該当するところに○印を付けてください。

質問	該当項目
1 隣接する建物が傾き、避難所の建物に倒れ込む危険性はありますか？	A いいえ B 傾いている感じ(危険な感じ)がする C 倒れ込みそうである
2 建物周辺に地すべり、がけすずれ、地割れ、噴砂・液状化などが生じたか？	A いいえ B 生じた C ひどく生じた
3 建物が沈下しましたか？あるいは、建物周囲の地面が沈下しましたか？	A いいえ B 生じた C ひどく生じた
4 建物が傾斜しましたか？	A いいえ B 傾斜しているような感じ(危険な感じ)がする C 明らかに傾斜した
5 外部の柱や壁にひび割れがありますか？	A ない、または髪の毛程度のひび割れがある B 比較的大きなひび割れが入っている C 大きなひび割れが多数あり、鉄筋が見える
6 外壁タイル・モルタル(表面のコンクリート)などが落下しましたか？	A いいえ B 比較的落下している(多数箇所)、比較的落下しかけている(多数箇所) (Cの回答はありません)

※ここまでは、Aのみの判定の場合は、次に進んでください。

建物の中に入り、次の質問の該当するところに○印を付けてください。

質問	該当項目
7 床が壊れましたか？	A いいえ B 少し傾いている、下がっている C 大きく傾斜している、下がっている
8 内部のコンクリートの柱、壁にひび割れがありますか？	A ない、または髪の毛程度のひび割れがある B 比較的大きなひび割れが入っている C 大きなひび割れが多数あり、鉄筋が見える
9 建具やドアが壊れましたか？	A いいえ B 建具・ドアが動かない C 建具・ドアが壊れた
10 天井、照明器具が落下しましたか？	A いいえ B 落下しかけている C 落下した
11 ガスが漏れている匂いがしますか？	A いいえ C ガスの匂いがする (Bの回答はありません)

【簡易判断基準】

① Cの答えが一つでもある場合は、『危険』です。

_____施設内へは立ち入らず、災害対策本部へ連絡し、必要な対応を確認します。

② Bの答えが一つでもある場合は、『要注意』です。

_____避難者を施設内へ入れないようにし、専門家による応急的な確認を行うなど必要な措置を災害対策本部へ連絡します。

③ Aのみの場合

_____危険箇所には注意したうえで施設を使用し、災害対策本部へ連絡します。

※ 余震により被害が進んだと思われる場合は、再度チェックシートで被災状況を点検してください。

建物被災状況チェックシート(校区避難所運営マニュアルひな形の様式2)

施設被害のイメージ：参考写真
(熊本地震)各部材の破壊等

耐震化未了の学校施設の被害



<柱のせん断破壊>



<校舎内の柱に亀裂>

耐震基準を満たした学校施設の被害



<置屋根定着部コンクリートの落下>



<トラス部材落下>



<屋根ブレース接合部の破断>



<柱脚の破壊>

施設被害のイメージ：参考写真
(熊本地震)柱脚の破壊



資料：「避難所となった学校における施設面の課題等について」(2016.6.13)
熊本地域教育委員会



施設の安全点検訓練の風景
(鳳校区、三宝校区)

資料：「熊本地震の被害を踏まえた学校施設の整備について」
緊急提言(案) 平成28年7月

熊本地震の被害を踏まえた学校施設の整備に関する検討会

イ 住区レイアウトづくりと居住スペース体感訓練を行う

- 避難所開設時に混乱しないよう、あらかじめ住区レイアウトづくりを行う必要があります。この住区レイアウトづくりの必要性を理解するために、実際に住区レイアウトを作ったうえで、各居住スペースに座ったり、寝転がったりして、居住スペースの広さ（または狭さ）を体感します。

・住区レイアウトづくりと居住スペース体感訓練の実施項目

1	対象者	<input type="checkbox"/> 自主防災組織の役員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 学校
2	準備するもの	<input type="checkbox"/> 養生テープ <input type="checkbox"/> コンベックス（巻き尺） <input type="checkbox"/> 住区レイアウト配置図 <input type="checkbox"/> 居住スペースの名称（看板） <input type="checkbox"/> 段ボール（下敷）など
3	実施ポイント	住区レイアウトづくりでは、通路を確保することが重要です。あらかじめメイン通路やサブ通路を決めます。 居住スペースの場所割は、要配慮者を優先的に決定したうえで、医療関係等の個別のスペースを確保したほうが良いと判断される場合はその場所も決めます。 また、プライバシーが確保できる工夫や、女性・乳幼児等に配慮してスペースを利用します。

手順

ステップ1 住区レイアウトの配置を決めます

- 住区レイアウトの配置にあたっては、体育館の正面入り口とステージをつなぐ形で、メイン通路を確保します。メイン通路にぶらさがるように、複数のサブ通路を確保しながら、数ブロックの区画（住区）を作ります。
- 養生テープとコンベックス（巻き尺）を使い、区画線を引いていきます。

ステップ2 配置すべき居住スペースを決めます

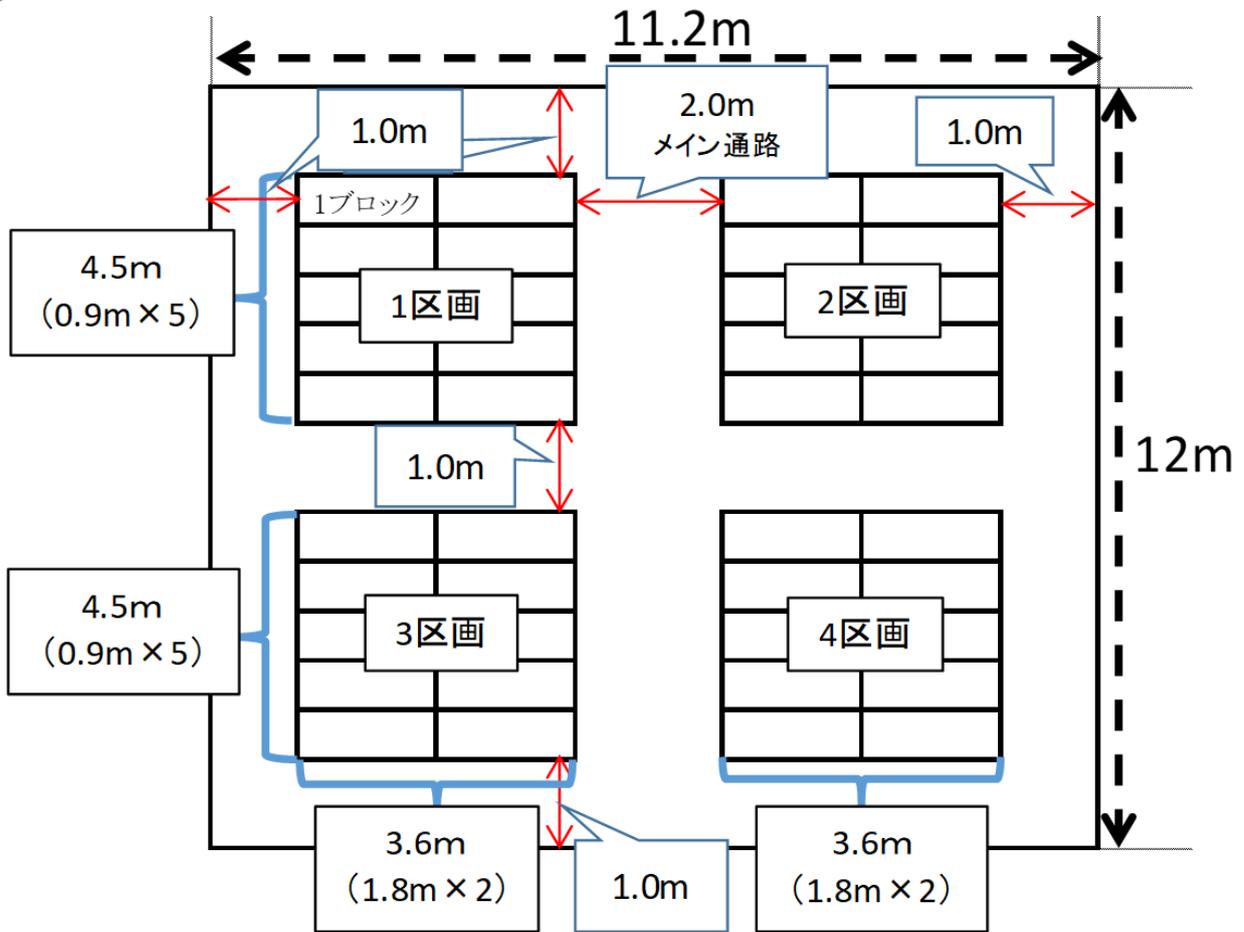
- 配置すべき各居住スペースを想定しながら、住区レイアウトの配置を決めます。
- 居住スペースは、例えば、要配慮者スペース、女性更衣室・授乳スペース、負傷者・病人スペース、自治会スペース、開放スペース等が挙げられます。
- 配置を決めたら、居住スペース名称の看板をそれぞれ立てておきましょう。

ステップ3 居住スペースの体感訓練を実施します

- 居住スペースの一人あたりの広さはおおよそ 1.6㎡（約 1.8m×約 0.9m）です。
- 座ったり、寝転がったりして広さを体感してみましょう。必要に応じて、段ボール等も敷いてみましょう。
- なお、居住スペースの広さ（または狭さ）は、避難者数や災害状況により、必要に応じて適宜調整が必要です。

ワンポイント

- ◇ 要配慮者スペースの優先的な配置を行いましょう。要配慮者スペースは、できるだけトイレの近い場所、必要に応じて、できるだけ多くの人の目が届く場所に配置しましょう。
- ◇ プライバシーの確保にあたっては間仕切りの工夫や視線が気にならない更衣室・授乳室の確保、女性や子育てに配慮したスペース利用に十分配慮しましょう。



住区レイアウト配置図例



居住スペースの体感訓練の風景



要配慮者スペース例

避難所として利用された体育館のイメージ
参考写真 (熊本地震: 南阿蘇村南阿蘇中)



資料: 「避難所となった学校における施設面の課題等について」(2016.6.13)
熊本県教育委員会

ウ 避難者誘導訓練を行う

- 避難所開設時に混乱しないようにするとともに災害時にみんなで協力することの大切さを理解・共有するため避難者同士による居住スペースへの誘導訓練を体感します。
 - ・ 避難者誘導訓練の実施項目

1	対象者	□自主防災組織の役員 □地域住民 □学校
2	準備するもの	□ビブス（ゼッケン） □居住スペースの名称（看板）
3	実施ポイント	避難者誘導訓練では、避難者の具体的な状況設定が重要です。特に、要配慮者や負傷者等を意識しながら、具体的な誘導場面を設定します。

手順

ステップ1 誘導すべき避難者を設定します

- 誘導すべき避難者を複数設定します。
- 避難者は、例えば、車いすを使用している人、帰宅困難者、赤ちゃん連れ、聴覚障害者、負傷者、着替えたい人などです。

ステップ2 避難者の具体的な状況や要望などをコメントとして用紙にまとめます

- 具体的な避難誘導場面を想定しながら、避難者が問い合わせる言葉をコメントとして、ビブスなどに貼れる用紙に、それぞれまとめます。
- コメントの内容としては、例えば、次のとおりです。
 - 車いすを使用している人 「トイレの近くがいい」
 - 帰宅困難者 「自宅が大阪市内なのですが、南海本線が動いていません」
 - 赤ちゃん連れ「授乳できるところを探しています」
 - 聴覚障害者 「耳が聞こえません」
 - 負傷者 「手当をお願いします」
 - 着替えたい人「更衣室ってないですか？」 など

ステップ3 避難者役と誘導者役を決めて、誘導訓練を実施します

- 訓練に集まった人の中から、希望者を募り、避難者役（ビブス着用）と誘導役を決めます。
- ステップ2の内容により、訓練を実施します。

ワンポイント

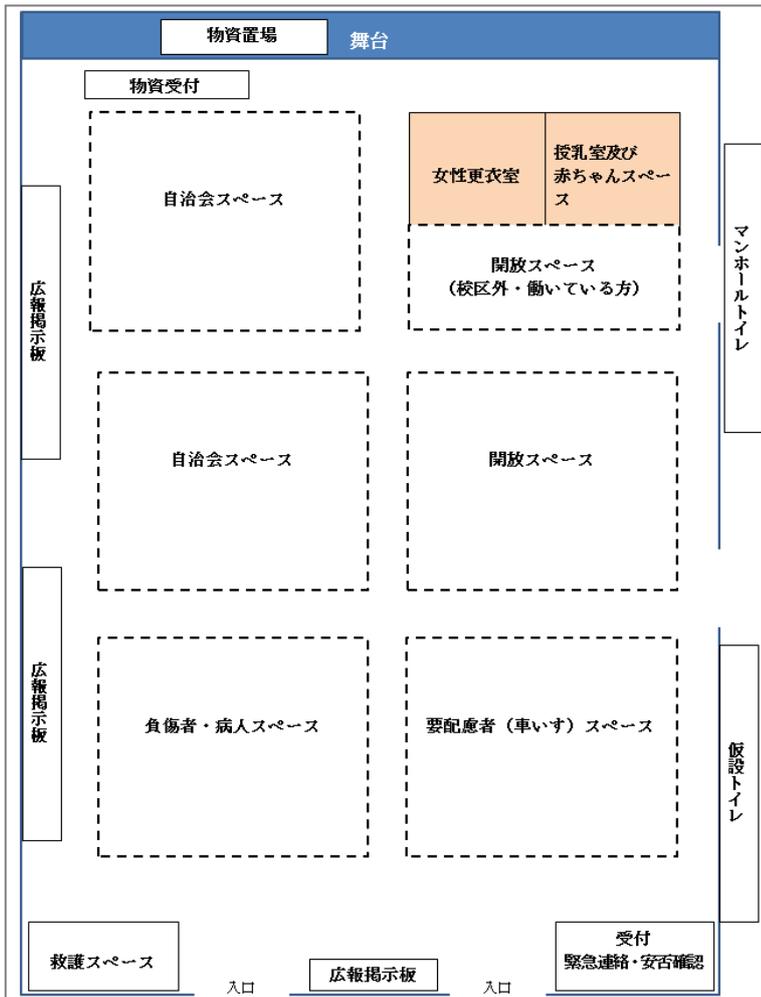
- ◇ 訓練は、誘導した結果に対する正誤よりも、他者を思いやる気持ちや、災害時にみんなで協力することの大切さを理解し、関係者間で共有することが重要です。
- ◇ 助けられる人から、助ける人へとステップアップするための意識付けを心掛けることが重要です。



避難所に来る様々な避難者の設定例



負傷者役の誘導例



避難者の誘導先となる居住スペースの設定例（錦西校区）



車いす役の誘導例（１）



車いす役の誘導例（２）

取組メニュー6 地域の意見などを集める

①防災に関する意識調査を行う

- 意識調査は、訓練時や訓練後に実施することで、訓練を通じた住民意識が把握でき、今後の訓練内容の検討や自主防災活動などに役立てることができます。
 - ・(例) 訓練時のアンケート(登美丘西校区、錦西校区)等

1	対象者	<input type="checkbox"/> 地域住民
2	準備するもの	<input type="checkbox"/> アンケート票 ※様式7(アンケート様式(例))参照
3	実施ポイント	訓練実施内容などの目的に合わせて実施することで、自主防災活動に対する課題や改善策など、客観的かつ、より多くの意見を把握することができます。集計したアンケートを今後の自主防災活動に役立てていきましょう。

手順

ステップ1 アンケートの目的を決め、調査票を作ります

- 目的、調査日、対象者、配布方法、回収方法を決めます。調査票は、様式7(アンケート様式(例))を参考に作ってみましょう。

ステップ2 アンケートを実施します

- 調査票を配布し、対象者に記入してもらいます。

ステップ3 集計・分析を行います

- 回収した調査票を集計し、活動の課題や改善点、回答者の意見等をまとめます。

ステップ4 分析した結果を今後の活動などに活かします

- 分析した結果を、地域の防災マニュアルなどに反映するとともに、今後の活動に活かします。

事例

意識調査の事例

大阪市生野区：

◇目的：自主防災組織の必要性の啓発と支援

◇方法・対象：郵送、区民モニター(260人)、有効回答230人

<アンケート項目>

問1 あなたは、「東南海・南海地震」に関心がありますか？

問2 あなたは、「上町断層帯による地震」に関心がありますか？

問3 あなたは、地震による家屋の倒壊や火災の発生についてどのように感じておられますか？

問4 あなたの現在のお住まいでは、地震対策として家具の固定をしていますか？

問5 あなたは、過去1年間に防災訓練に参加したことがありますか？

問6 あなたは、災害時における家族での安否確認方法を決めていますか？

問7 あなたは、最寄の一時避難所、収容避難所がどこかをご存知ですか？

問8 あなたは、災害時、家族の安全が確認できた後、地域の救助活動に参加されますか？

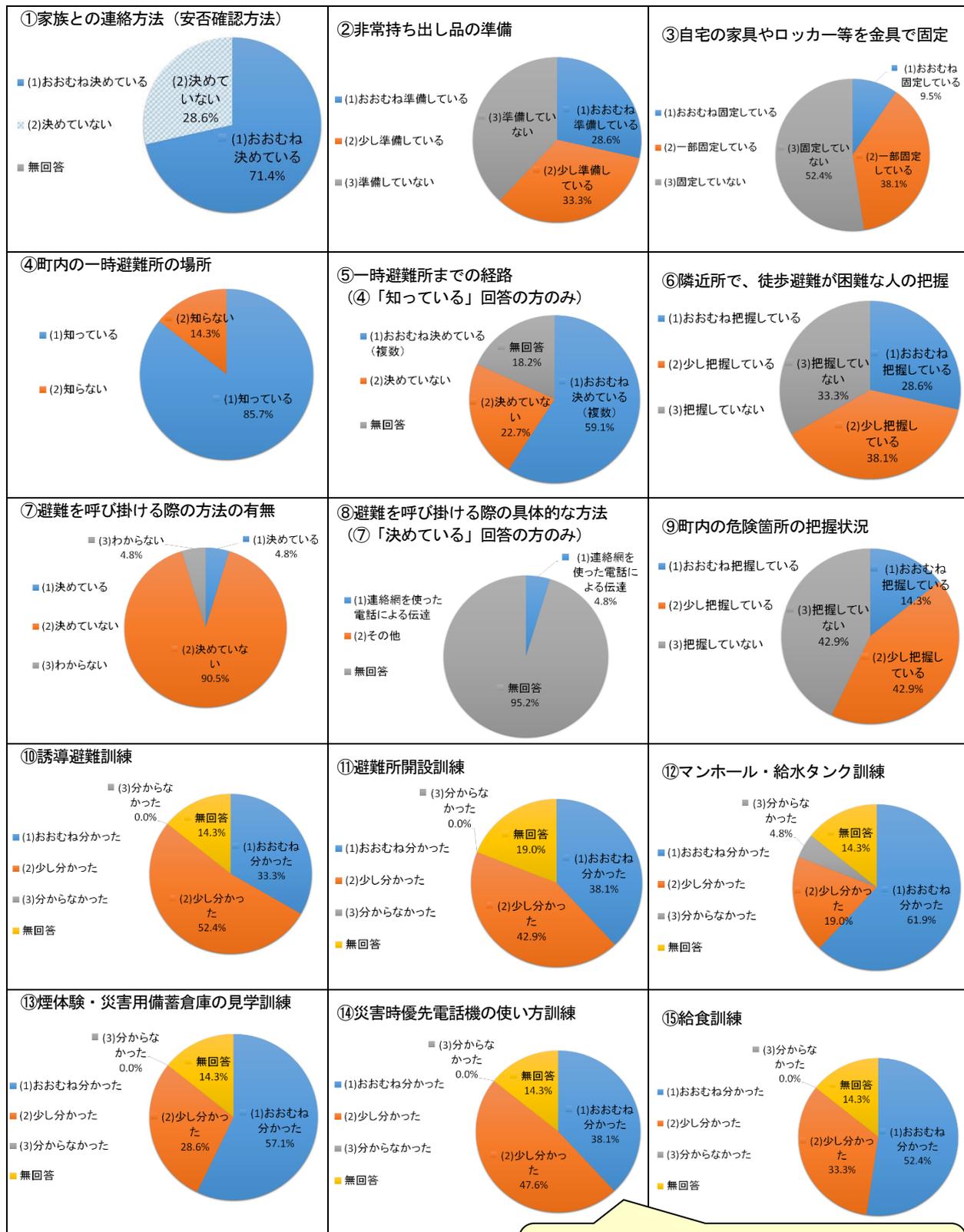
問9 地域の自主防災力を高めるためには、何が最も重要だと考えますか？

資料：大阪市生野区< <http://www.city.osaka.lg.jp/ikuno/page/0000101743.html> >

意識調査の事例

- 登美丘西校区：防災訓練後にアンケートを実施し、その結果を次年度に向けた防災訓練の検討材料として活用するために、校区カルテに追加した取組です。

1 自治会、隣組組長へのアンケート結果

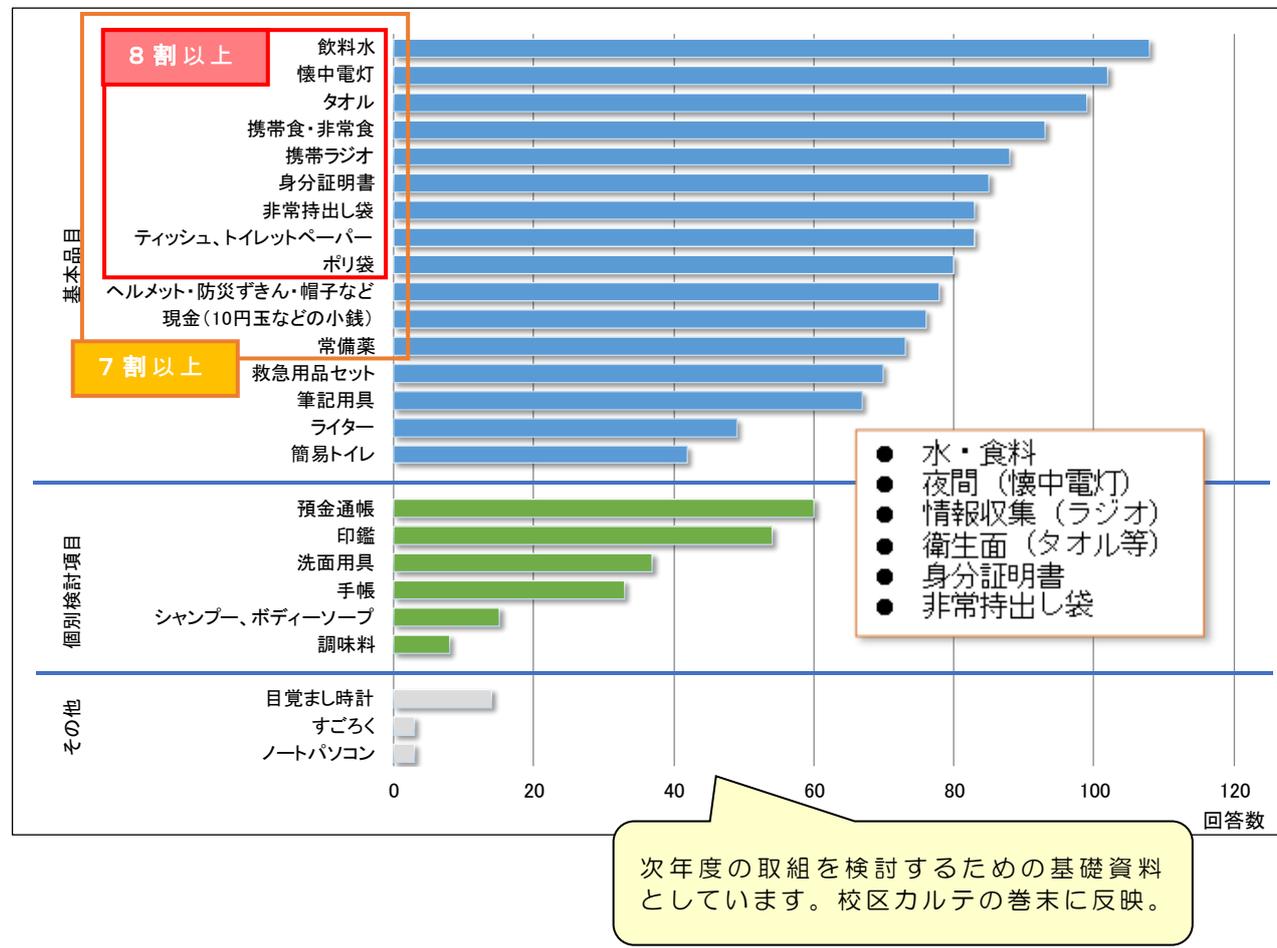


次年度の取組を検討するための基礎資料としています。校区カルテの巻末に反映。

意識調査の事例

- 錦西校区：「何を持って逃げる訓練」後にアンケートを実施し、その結果を次年度に向けた防災訓練の検討材料として活用するために、校区カルテに追加した取組です。

【チェックリストからの選択（回答者数：112件）】



ワンポイント

- ◇ 回答者の負担にならないよう、質問方法や設問数に注意しましょう。
- ◇ 回答者の個人情報を入力するような設問は避けるべきですが、アンケートの目的によっては、氏名、性別、年齢、居住エリアなどが必要となります。“目的以外のごことに使用しない”という一文を併記するなど、十分に配慮しましょう。
- ◇ 集計結果をもとに地域で話し合い、これからの活動に反映しましょう。

■ 堺市の問い合わせ先

名 称	電話番号
危機管理室	228-7605
堺 区 役 所（自治推進課）	228-7082
中 区 役 所（自治推進課）	270-8154
東 区 役 所（自治推進課）	287-8122
西 区 役 所（自治推進課）	275-1902
南 区 役 所（自治推進課）	290-1803
北 区 役 所（自治推進課）	258-6779
美原区役所（自治推進課）	363-9312